



# 日本女医会誌

復刊第 195 号  
2008 年 8 月 25 日発行  
題字 吉岡彌生

## 巻頭言

# 日本女医会会長に再選されて

小田泰子

この度、再度会長にご選出頂きまして有難うございます。日本女医会会則に従い、定年や任期満了などで今期も多くの役員が交代し、役員員の平均年齢がかなり若返りました。若い人のアイデアと行動力に期待して会務を進めて参ります。

今年から独立行政法人福祉医療機構から助成を得まして、新しい二つの事業「在宅高齢者（嚥下障害者、胃瘻造設者）の栄養管理事業」「十代の性の健康支援ネットワーク作り事業」を始めるべく委員会を発足させました。今後2年間の継続事業ですので、皆様のご協力を頂くことになろうかと思ひます。その際にはご協力をお願いします。

アメリカでは民主党大統領候補者予備戦でヒラリーさんがオバマ氏に敗れました。ヒラリーさんは14歳の時に宇宙飛行士になりたいとNASAに手紙を出しました。しかし、女はダメと断られました。その

ときヒラリーさんは「努力や勤勉で打ち破られない壁があるのを知った」ということです（朝日新聞「天声人語」08/6/5）。この度の予備選でも「女性は知的であると同時にセクシーで、母親であると同時に自立して、美しく、安心でき、モラルがあって、現代的で、常に若くあることが要求される。ガラスの天井を打ち破ることはできなかったが、1800万のヒビを入れることができた」と言われたそうです。アメリカにも女性に越えがたい高い壁があることを知ります。女性政治家ホットマン氏は「クリントンがはっきりものを言えば、率直ではなく意地悪。涙を流せば優しさではなく弱さとなった」。朝日新聞「社説」08.6.11と発言されておられます。

日本にはアメリカ以上に厚く、数多くの壁があることは実感されている方も多いことでしょう。皆さんと一緒に挑戦して参りたいと希望しています。

## 日本女医会誌 (第195号) もくじ

〈巻頭言〉日本女医会会長に再選されて……………小田泰子 (1)
第53回日本女医会定時総会……………澁谷きよみ (2)
日本女医会副会長に就任して……………津田喬子 (2)
新役員各部担当……………(3)
副会長に就任して……………松井ひろみ (3)
副会長に就任して……………山崎トヨ (4)
監事に就任して……………中井紀子 (4)
監事に就任して……………森川由紀子 (4)
〈各部の抱負〉……………古賀詔子、濱田啓子、荒木葉子、 山本時子、田中優子、対馬ルリ子 (5~7)
〈委員会の抱負〉…山本續子、荒木葉子、対馬ルリ子 (7、8)
〈新役員のことば〉……………
秋葉則子、安部由美子、小関温子、川村富美子、澤口彰子、 宮崎千恵、宮本治子、矢口有乃、山田邦子 (9~12)
第53回日本女医会総会 会長挨拶……………小田泰子 (13)
各賞と研究助成授与 各賞受賞者と受賞理由……………(14)
受賞者の言葉……………伊藤千賀子、今野信子、竹内静香、

吉本ミチ、緒方文江、大久保由美子、藤巻わかえ (15~18)
心洗われたシスター渡辺のご講演……………藤川真理子 (18)
懇親会でソプラノを楽しむ……………角田由美子 (19)
社団法人日本女医会 定時総会議事録……………(20)
社団法人日本女医会 評議員会議事録……………(21)
〈追悼〉野澤良美先生を偲ぶ……………中濱昌子 (22)
関口喜久先生をお送りして……………神山シヅ (22)
国際女医会西太平洋地域会議のおしらせ……………(23)
日本外科学会でのシンポジウムと女性外科医懇親のための 朝食会……………富沢康子 (23)
支部だより……………野崎京子 (24)
私の大学……………堀本江美 (25)
理事会議事録 (3月、4月)……………(26)
寄付者一覧……………(28)
会員動静……………(28)
編集後記……………(28)

# 第 53 回日本女医会定時総会



2008年5月18日 京王プラザホテル（東京都）

社団法人日本女医会総会に際し、会員数 1700 名、出席者数 115 名、記入委任者数 548 名、白紙委任者数 232 名、以上定款で定められた 340 名に達したので総会が成立する旨、古賀理事より報告され、開会が宣言された。会長挨拶に続き、平成 19 年度物故者への黙祷が捧げられた。報告は会務および事業報告（山崎トヨ副会長）、ナショナルコーディネーター報告（内瀧理事）、議長団・議事録署名人の選出に続き 7 つの議題が提出された。

- (1) 平成 19 年度事業報告承認の件（山崎トヨ副会長）
- (2) 平成 19 年度一般会計収支計算承認の件及び余剰金処分案（高原理事）
- (3) 平成 19 年度特別会計報告（森川理事）
- (4) 会計監査報告（中井監事）
- (5) 平成 20 年度事業計画案（鹿田副会長）
- (6) 平成 20 年度一般会計収支予算案（濱田理事）
- (7) 各賞選考規定について（鹿田副会長）
- (8) 次期および次々期開催地に関する報告（小田会長）
- (9) その他

吉岡弥生賞医学部門は伊藤千賀子会員、社会部門は今野信子会員と竹内静香会員が受賞。荻野吟子賞は緒方文江会員、吉本ミチ会員が受賞された。学術研究助成は大久保由美子会員、藤巻わかえ会員の二氏が授与された。役員選挙は候補者が定数内であったので行わず、また初めての試みとしてフロアで会員の前で選挙を行った。今回は本部主催総会であり、また初めて総会にパワーポイントを使用し、会員に視覚的にもわかりやすい運営をめざした。今回の総会では新しい試みを多く取り入れたが、十分に反省・検討を重ね、次回からはさらに洗練されたものにしていきたいと考えている。

（文責 澁谷きよみ）



## 日本女医会副会長に就任して

津田喬子

社団法人日本女医会会員の皆様にはお変わりなく、ますますご活躍のこととお慶び申し上げます。

2008年5月18日の社団法人日本女医会第53回総会において、副会長に選出していただきましたことは身に余る光栄であり、それと同時に、この重責を全うしなくてはならないと決意を新たにしております。まずは、小田泰子会長を中心に執行部が一丸となって会務の円滑な遂行を図ることが第一歩と考えております。

まだまだ日本は女性医師に対する評価は高くありません。吉岡彌生先生が創設されたこの日本女医会は、私達の精神的拠り所であると同時に、時代を先取りするオピニオンリーダーとして、公益法人として、若い女性医師

を支援するメンター集団としての責任があると考えます。

これまでには多くの事業が行われ、継続されています。「吉岡弥生賞授与、荻野吟子賞授与、若手研修者に対する学術研究助成」、「十代の性と健康指導者養成講座」、「21世紀のこどものために小児救急医療の整備と提言」、冊子「どうしよう……子供の救急」の刊行、「たんの吸引を安全に実施するための教育講習事業」、「女性医師支援委員会」による講演会開催などがあります。小田泰子会長が日本女医会のホームページで「……自分のために、友人のために、後に続く女性医師のために……」と述べておられますが、これからもさまざまな活動を通して日本女医会の存在をアピールし、皆様に「日本女医会と一緒に充実させていってあげよう」というお気持ちをもっていただけますように、頑張りたいと存じます。

最後になりましたが、皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

## 新役員各部担当

部署	副会長	理事
事業部	津田	田中 藤川 山田 吉馴
学術部		安部 荒木 内潟
渉外部	松井	川村 澤口 矢口 山本
広報部		秋葉 澁谷 対馬 宮崎
庶務部	山崎	小関 古賀 宮本
会計部		高原 津田 濱田



小田泰子



津田喬子



松井ひろみ



山崎トヨ



中井紀子



森川由紀子



秋葉則子



安部由美子



荒木葉子



内潟安子



小関温子



川村富美子



古賀詔子



澤口彰子



澁谷きよみ



高原照美



田中優子



塚田篤子



対馬ルリ子



濱田啓子



藤川真理子



宮崎千恵



宮本治子



矢口有乃



山田邦子



山本蒔子



吉馴茂子



## 副会長に就任して

### 松井ひろみ

第53回総会において、副会長に御決定いただき、その責任の大なる事を痛感しております。

日本女医会では、子育て支援、青少年の性の問題・指導者養成、長寿社会への対応など各年齢層に必要な課題について助成を受け、外部一般の方々へ向け働きかけてきております。又、女子医学生・女医に対しては働きやすい環境の整備、再チャレンジへの支援等への対応も行ってありますが、現在、女子医学生・女医が全医師の4割近くに達し、今や女医の参画なくして日本の医療は成立しえない現実に直面しています。今回だされた内閣府男女共同参画局の女性の参画加速プログラムにも、「2020年までに30%」の目標実現にむけ、そのトップに女性医師への取り組みがあげられています。今日ほど女医の存在が各方面から注目される時代はなく、大きな飛躍への活動をおこすチャンスであろうと思います。女医の生かし方・そのシステムの構築等、医療制度の大変革の必要性

を痛感いたします。

かつて驚愕する思いで聞いた医療費亡国論以来、日本の医療政策は医療費削減が目的であるかのごとき現状が続き、病院閉鎖、医師・看護師・介護職不足、診療報酬の引き下げ等、医療・福祉を取りまく環境は崩壊寸前の極めて深刻な状況です。

しかし、医療は公共事業よりその波及効果・経済効果の高いことが明らかになっている今日、すでにEU（欧州連合）では、医療こそ経済発展の原動力として認識されているとききます。国民の最も求めるものは、医療・福祉の充実です。今後、男医・女医共に働きやすい新しい医療立国日本をめざし、小田会長を中心に、役員・会員と密接に連携をとり、活動したいと思っております。

女医少数時代に先輩女医が必死の思いで勝ち取って来た女医の地位の確立から100余年の歴史を刻み、今、国を動かす力へと発展させてくれました。今こそ、女医達が大結集すべき時であることを確信し、輝ける女医時代の創造にむけ大きな力を発揮出来ますよう、御指導、御協力をお願い申し上げます。



## 副会長に就任して —元氣な日本女医会を願って—

**山崎トヨ**

再度副会長に選出され、責任の重大さを痛感しております。会長の“Do for others”の精神を強く心し、私に出来ることに誠心誠意努力いたす所存です。

庶務・会計担当として、会員増強と支部活性化による持続可能な日本女医会の発展が私の大願であり責務でもあると考えます。1976年に第15回国際女医会議が東京で開催されましたが、その前年の1975年の会員数は4,692人の会員でした。現在の会員数はその頃の半分以下の1,700人弱です。

全国約5万人以上の女性医師、さらに今年の医師国家試験合格者の40%近くが女性で益々女性医師が増加する中で、本会の会員数は激減中であることは真に悲しく残念でなりません。

明治の時代に先輩女医が大変な御苦勞をされて女医の道を切り開いて下さったことが今日の女医の存在につながっていることを私達は決して忘れてはならないと思います。そしてその後女医の拠り所としてのみでなく、社会貢献の上からも日本女医会の果たしてきた役割は広く社会でも認められています。今期も日本女医会は時代に合った仕事として次の3つの委員会を立ち上げて実行しております。

- (1) 子育て委員会（性教育関連、小児救急関連）
- (2) 長寿社会福祉委員会（栄養管理）
- (3) 女性医師支援委員会

特に(3)に関しては日本医師会、全国の勤務医部会、保団連その他でも取り組んでいます。日本女医会としてより早く良い実績が出るよう努力すべきだと思っています。日本女医会は国際女医会にも属しており、他の女性団体との連携も密にしております。

事を成すには人とお金が必要です。どうか全国の会員の皆様をお願い致します。お一人がお一人の女性医師をお誘い下さって会員増強に御協力下さい。そしてもう少し女性医師としての力を発揮しやすい元氣のある日本女医会になりたいと思います。

また日本女医会は楽しい会としても心を配りたいと考えております。開かれた女医会として皆様の忌憚のないお声をお待ちしております。今後とも皆様の御指導御鞭撻を宜しくお願いいたします。



## 監事に就任して

**中井紀子**

前年度に引き続き、伝統ある社団法人日本女医会監事に任命して頂き、身の余る事と思っております。

日本女医会発展の為、諸先輩のお力を借りながら一層力を注いでまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



## 監事に就任して

**森川由紀子**

この度、8年間務めさせて頂きました理事（会計担当）を辞し、監事に就任することになりました。

日本女医会は、会員の会費、独立行政法人福祉医療機構からの助成金等により社会活動をすべき法人として存在意義があり、現在各種支援事業に取り組んでおります。最近の事業では、社会的に高い評価を得ております。ただ残念ながら近年、自然退会などに伴う会員数の減少等により、資金の調達が難しく資産の目減りは免れない状態にあります。

近代社会においては、どこの集団、どのような部署にも、チェック機能が必要であることはいうまでもなく、国家公務員を代表とする自治体等のさまざまな会計処理などが明るみにできると、我が日本女医会の会計処理は万全であると思いながらも、チェック機能がいかに大切であるかを改めて痛感しています。

今年度の総会に於いて、吉岡弥生賞の基金と一般会計へ、会員の皆様に浄財の御寄付をお願い致しましたところ、沢山の方々からご賛同を頂きました。本当に有り難いこととございます。

皆様方のご厚志を無にすることのないように、また伝統ある日本女医会の発展的存続に向けても、客観的立場から、財務管理、金銭の使途等を中心に、各事業の推進等に関しても監事としてチェックさせて頂くつもりでおります。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

# 各部の抱負



## 庶務部

古賀詔子

今期の庶務部は、小関理事、宮本理事と庶務部担当3期目になる私との3名で、山崎トヨ担当副会長の下、2年間務めさせて頂くことになりました。

庶務部は、毎月の理事会、毎年の定時総会・定時評議員会のスムーズな開催のために、議題決定、資料収集と、会員動静の把握などを事務局と連絡を取りながら行っております。

また、日本女医会では、会長、副会長、理事が各地に出向き、支部会員や非会員も含めた近隣の女性医師の声を直接お聞きする、「ブロック別懇談会」を開催しておりますが、開催準備は庶務部が担当致します。会員増強による日本女医会のさらなる活性化と会のアピールのため、今年はより一層力を入れたいと考えております。

第53回定時総会は、本部担当で庶務部を中心に開

催させて頂きました。平成20年5月17日(土)に評議員会と懇親会、翌18日(日)に総会という日程でした。今回初めての試みとして、パワーポイントを使った資料提示を行いました。また、懇親会でのアクションは理事自らが出演、日本女医会バッジを参加者への記念品とするなど、緊縮財政の折から、コンパクトな支出になる工夫をしました。シスター渡辺によるご講演も、出席者にはご満足頂けたようでした。

今年度は、理事選挙規定や理事定数、事務職員の就業規則の見直しを図ることになっており、原案の作成を行います。日本女医会の古くからの良き慣習を大切にしつつ、時代に即した新たな要素を加えた構想にしたいと考えております。6月に、新メンバーでの庶務部のスタートを切りました。皆様、どうぞよろしくお願い致します。



## 会計部

濱田啓子

今回理事に再選され、前期会計担当の高原理事と塚田理事とご一緒に、再度会計を担当させていただ



乳幼児便秘治療剤

薬価基準収載

# マルツエキス分包

【特徴】

- マルツエキスの主成分は麦芽糖ですので、洗腸・下剤と異なり、穏やかで自然な排便を促し、便通を整えます。
- 甘さがあり水あめ状なので、乳幼児にも飲みやすい薬です。
- 便秘時には食欲減退を来しやすいものですが、不足しがちな栄養の補給に役立ちます。
- 甘い麦芽糖を主成分としておりますが、ショ糖(砂糖)は含んでおりません。
- 分包品なので、調剤時に計量する面倒がなく、容易に服用することができます。また、保存にも衛生的です。

【組成】

マルツエキス100%(でんぷんを麦芽で糖化しカリウム塩を加え、減圧濃縮した水飴状の製剤で、麦芽糖を60%以上含有する。)

【効能・効果】

乳幼児の便秘/乳幼児の発育不良時の栄養補給

【用法・用途】

- 1歳以上3歳未満…1回 9~15g
- 6ヵ月以上1歳未満…1回 6~9g
- 6ヵ月未満…1回 3~6g
- いずれも1日2~3回経口投与する。



赤ちゃんに自然な排便を！  
マルツエキスが分包品として、初めて薬価基準に収載されました！



資料請求先

製造販売元 **和光堂株式会社**

〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-14-3

04.08

くこととなり、責任の重さを感じております。

前年度の諸活動に関しまして、お陰様で無事決算の承認を得ることができました事、厚く御礼申し上げます。又、今期総会には多勢の会員諸姉より多大な御寄付のお申し出がありとても心強く感じた次第です。

現在、国際女医会は平敷淳子先生が会長となられており、今年度は西太平洋地域会議もごさいます。日本女医会是小田泰子会長を中心に諸委員会を立ち上げ、子育て、長寿、社会福祉の充実を計ろうといたしております。

今後の活動が大いに期待されるところでございますが、反面、会費を主な財源とする一般会計は相変わらず低迷いたし、会員数の増加をみなくては増収を期待できない現状にあります。

各部理事の方々の御協力を得て、1人が1人を呼び込み各種事業により収入を得ることを念頭に、御寄付いただきました資金とあわせ、有効に活用すべく会計一同力をあわせて努力する所存でございます。

会員の皆様には今後とも女医会が、個人のあゆみにとり、女医のあゆみにとり、社会のあゆみにとり、よりよき働きをなします様、今までにもましての御支援、御協力を頂けます様、何卒よろしく願い申し上げます。



## 学術部

荒木葉子

2008年度は、内瀧安子先生、安部由美子先生と荒木の3人で担当いたします。学術部を長らく率いらした内瀧安子先生が、本年はナショナルコーディネーターなどのお仕事でご多忙とのことで、微力ながら私が本文をお引き受けいたしました。任期が2年になっており、あっという間に過ぎ行く、という印象がございますが、他部門の方々と協力しながら、運営していきたいと思っております。

学術研究助成や吉岡弥生賞の授与は学術部の大きな仕事です。女性医師のキャリア育成は重要なテーマですので、該当者の方に是非お声をかけてください。

日本医療は過渡期に入っており、女性医師問題は、その連続線にあると考えております。基礎医学、臨床医学に加え、社会医学や医療経済、医療政策なども学術部が主体となってセミナーやワークショップなどを開催したいと考えております。

ご協力宜しく願いいたします。



## 渉外部

山本蒔子

2008年5月の総会において理事に再選されました。2006年から2008年の2年間は、渉外部を初めて担当し、国連NGO国内婦人委員会や国際婦人年連絡会議などにおける他の女性NGOの活動を知り、日本女医会としてもっとかかわりを持つべきと考えました。2008年からの2年間もいままでの経験を生かし、渉外部を担当することになりました。副会長の松井ひろみ先生のもとに、澤口彰子先生や新理事の川村富美子先生と矢口有乃先生と共に活動します。

国連NGO国内婦人委員会の活動の一つに日本・アラブ女性交流があります。今年度には日本女医会がこの事業を担当することになっております。2003年2月にも日本女医会が担当しており、その際に平敷先生のご指導のもとに私もクローズドセッションに参加致しました。今回も女医会をあげてより良いプログラムを作り、実りある交流を実現させます。

また、この委員会は毎年行われる国連会議への日本政府の発言に対する提言をします。女医会も専門性を生かして、社会的な発言をしていきます。

国際婦人年連絡会議の中にはいくつかの委員会があり、政治、教育、労働、人権、憲法などの広い分野において、活動が行われています。昨年は、日本女医会は環境委員会のメンバーでした。ともすれば医学のことのみを考えてしまいがちですが、広い視野を持つために、積極的に参加します。

内閣府の男女共同参画連携会議、日本医師会の男女共同参画フォーラムや厚労省の「健やか親子21推進会議」にも渉外部が参加しています。女性医師の働きやすい環境の整備、医学部における女性研究者を増やす、日本医師会において女性医師の発言できる機会を作るなどは、日本女医会が最も取り組まなければならない問題です。その実現のために行政や日本医師会と連携を築けるように、渉外部として活動したいと考えます。会員の皆様のご支援をお願い申し上げます。



## 事業部

田中優子

事業部は津田喬子副会長の指導の下で新しいメンバーでスタート致します。ブレイン的存在藤川真理子理事、楽しいムードメーカー吉馴茂子理事、初々しい新人山田邦子理事、前期より引き継ぎます田中優子が担当することとなりました。

前期は会員対象の女医会活動に関するアンケートという大変な作業がありました。会員の皆様にはご協力頂きありがとうございました。

そのほか事業部の主な活動内容は以下のようです。

- 1 全国公募による公開講演会
- 2 荻野吟子賞、地域功労賞の募集
- 3 地域医療奉仕活動への助成
- 4 社会保険新報社への原稿協力：月刊「いきいき」
- 5 講習会等の事業実施
- 6 災害、緊急時行動
- 7 バザー、親睦活動、販売による収益事業

各部の役割は便宜上振り分けられてはおりますが独立しているわけではなくオーバーラップしており協力しながらよりよいものを生み出していくためお互いに楽しく活動して行きたいと思えます。

会員の皆様も女医会活動に色々なアイデアを出していただきたいと思えます。参考にしながらより実のある活動をして行きたいと考えております。よろしくお願ひいたします。



## 広報部

対馬ルリ子

広報部は、松井ひろみ副会長のご指導のもと、秋葉則子新理事、宮崎千恵新理事、澁谷きよみ理事、対馬ルリ子の4名が担当することになりました。

これまで、大坪公子先生が、広報の仕事をほとんどとりしきって着実に進められておりましたので、つい大船にのったような気がして安心しておまかせしていた対馬が、気がついたら唯一の広報残留組となりました。今になって、もっと大坪先生について真剣に勉強しておればと反省し、内心焦っております。

しかし、他のメンバーの先生方は、広報ははじめてとはいえ、女医会も医師会も、これまでも多方面でご活躍されている方々ばかりですし、また、幸い、事務局も引き続き手伝ってくれていますので、きっと何と

かなるのではと楽観しております。ベテラン皆様のご協力を得て、女医会報の発行、ホームページの改訂・管理を、しっかり遂行していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

女医会誌は、1月、4月、7月（隔年8月）、10月の年4回発行され、会員に、女医会活動の報告、女医会活動の方向性について周知するとともに、他団体へも配布し、社会に貢献する日本女医会の存在意義をアピールする役割を担っています。また、最近では、ホームページも広く利用されるようになりましたので、昨年からのホームページのリニューアルにも取り組み、会員外の一般の方々や、医学生、若い医師のみなさんにも、女医会活動について知っていただくよう努力しております。

記事は、例えば、女性医師としての生き方、考え方。世界に開かれ、海外の国々や国際機関とも連携して活動する女医会の様子。女性や子ども、老人など経済的・社会的弱者を支援する活動について。若い女性医師・女性研究者の支援などなど。日本女医会も、これまでの伝統やつながりを大事にしながら、社会貢献できる団体、働く女性のリーダー的組織へと生まれ変わっていかうとしているのです。広報は、これらをリアルタイムで伝えながら、開かれた女医会誌、女医会ホームページとして運営していきたいと存じます。会員の皆様の、積極的なご意見やご参加を、お待ちしております。

## 各委員会の抱負

在宅高齢者（嚥下障害者、胃瘻造設者）の栄養管理事業について

山本綾子

脳血管障害や加齢に伴って嚥下障害を来す高齢者は年を追って増加しており、この結果、嚥下性肺炎などを繰り返す、経管栄養あるいは胃瘻からの栄養補給を余儀なくされることが日常的となっている。カテーテルや胃瘻への流動食の注入は日に3度行うが、ホームヘルパーが行うことは認められておらず、経管栄養や胃瘻造設患者さんの在宅療養や施設入所が困難となっている。

流動食注入は、教育によって安全に実施できる行為で、これによって患者さんのより良い栄養管理がなされ、医療費削減かつ長寿が期待できると考える。

【事業内容】

I. ビデオ、マニュアルの作成

II. 講習会開催

\*患者さんの家族、ホームヘルパー、一般市民約80名を対象に土曜日の午後1時～5時まで年3回講習会を開催予定

\*講習の内容（嚥下障害の基礎知識、栄養管理の知識、NSTの実際）

以上の事業に対し、独立行政法人福祉医療機構より、平成20年度長寿社会福祉基金より、3,952,000円の助成が得られたので、活動を開始し、平成20年7月4日第1回委員会を開催致し、本年度は講習会を名古屋およびその近隣で2カ所、東京で1カ所行うことが決定された。委員会の構成員は、山本纈子（藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院院長、日本女医会前理事）、大坪公子（三軒茶屋病院院長、日本女医会前理事）、松井ひろみ（日本女医会副会長）、東口高志（藤田保健衛生大学七栗サナトリウム外科学・緩和ケア教授）、向井美恵（昭和大学歯学部口腔衛生学教授）、秋葉則子（日本女医会理事）事務局、小林留美である。

今後の会員各位の御協力、ご指導を切にお願いしたい。

## 女性医師支援委員会

荒木葉子

2008年度は、澤口彰子先生、澁谷きよみ先生、塚田篤子先生、対馬ルリ子先生、藤川眞理子先生、宮崎千恵先生、矢口有乃先生、山崎トヨ先生、山田邦子先生と荒木の10人で担当いたします。

部門を越えたメンバーで、様々な角度から女性医師支援に向けて、短期、長期プログラムを構築したいと考えています。

昨年は、「医学を志す女性のためのキャリアデザインセミナー」を12月に開催いたしました。本年も9月21日日曜日に女性と仕事の未来館において、同館との共催事業として、第2回を開催いたします。

厚生労働省、文部科学省、医師会、病院会など様々な組織で女性医師支援の動きは高まっています。日本女医会は、以前より活動してきた、働く環境整備と個人のキャリアデザイン支援という、組織と個人への二つのアプローチを継続的に行っていく予定です。

日本女医会の強みは、自分自身が、様々な経験を積みながら、ライフとキャリアを重ねてきた、という実体験にあります。地域での中核的役割を果たして

いるメンバーも多く、机上の空論ではない、リアルな活動を推進したいと考えております。

課題は多いですが、日本女医会ならではの活動を構築し、日本の医療そのものに変革を与えていきたいと思えます。ご協力宜しくお願いいたします。

## 子育て支援委員会

対馬ルリ子

子育て支援委員会は、2008年度から2年間、福祉医療機構からの助成を得て、「十代の性の健康支援ネットワーク作り事業」を行う計画です。

これは、地域で親や教師が対応に苦慮する若者の性の問題について、健康支援・健全育成・犯罪防止の立場から、地域の女医会会員が核となり、医療・保健・教育・警察組織を横断する支援ネットワークを構築することを目的としたもので、初年度は、全国4箇所のモデル地区を選び、各地区でのヒアリング調査、問題点検討、横断的連絡会の開催、研修会の実施を通して、まずは継続的な地域ネットワークを構築してゆくことになっています。

委員として参加してくださる方として、これまで「十代の性と健康」指導者養成講座の開催に協力・支援して下さっていた鹿田儀子先生、津田喬子先生、早乙女智子先生、また、モデル地域の代表として、札幌の堀本江美先生（産婦人科）、盛岡の斉藤恵子先生（内科）、名古屋の澁谷きよみ先生（心療内科・婦人科）、岡山の金重恵美子先生（産婦人科）にお願いすることになり、それぞれ快諾を得ております。先生方、どうぞよろしくお願いもうしあげます。

8月には第1回の準備委員会を招集し、10月からは各地での活動を開始する予定です。

まずは、十代の妊娠・出産・中絶例、性感染症統計、性犯罪件数とその対応の実態について調査をし、これらのデータをもとに、子どもの人権に配慮し、よりよい健康支援をしていくためには「誰が、どこで、どのように」サポートすべきかについて、議論を深めていきたいと存じます。

この事業には、たくさんの方々のご支援・ご理解と、診療科や立場をこえた広い連携が不可欠です。この事業を通じて、それぞれの地域への貢献とともに、日本女医会のネットワークを広げる起爆剤にできたらと考えております。全国の会員の先生方、どうぞよろしく、ご協力ご参加のほどをお願い申し上げます。



## 新役員のことば



### 日本女医会理事となって

秋葉則子

平成20年5月の総会にて理事として推挙していただきました。

100余年の歴史ある日本女医会の役員に加えていただいたことは身にあまる光栄です。と同時に大変なプレッシャーも感じております。数多くの先輩諸先生方に今後は助けていただきながら精一杯役を務めます。

時代が大きく動いている現在、女医会もそのうねりの中で本来の会の特性、理念を失うことなく女医会だからできる、女医会でしかできない事業にしっかりとした施策、計画をたてて会員が参加して満足感が得られるようなものにしていけたらと考えています。

とかく女性医師は、とか女性だからと言われることが今でも少なからずあります。いやまだまだ現実にあります。女医会から他の組織等とともに連携し、情報の交換をおこないながら環境を整えていく時期でしょう。

今期私は広報の担当となりました。会員への情報の提供は勿論のこと、会員からの声がちらに届いてほしいものだと思っています。いままで地域の支部から本部を見ていた経験からなにか特別なというか、地域でまとまって事業を本部に対して起こそうという発想はなかったという位の意識しか持っていませんでした。反省しています。

先日7月9日、日本医師会男女共同参画委員会にて今年4月に調査がおこなわれた日本医師会内委員会への出席可能な役員リスト作成、それを基にした委員会への女性医師の参加人数が発表されました。

平成20年度において46委員会中26委員会に女性医師が在籍しました。一見多いようですが全委員数632名中51名でした。割合ではなんとたった8.2%です！！202030とは程遠い数字でした。これが現実です。

どれほどのことが実際やれるかわかりませんがこの任期中一生懸命やってみます。よろしくご指導、ご鞭撻おねがいたします。



### 理事に就任して 若い会員の参加を

安部由美子

この度、歴史ある日本女医会の理事に就任させていただきました。女医会での経験も浅く、地方におります私が力を入れたいと思っている事は、若い会員を増やし、彼女達をサポートし、彼女達に活躍していただくことです。自分の経験から推測しますと、地方で日常業務に忙殺されている女性医師は、日本女医会の存在自体に気付きにくいと思いますし、女医会が自分を励ましてくれる存在であることを知る人は少ないと思います。私が入会したのは留学からの帰国後3年が経ち、研究費に苦慮していた時期です。女医会には研究助成制度があると平敷淳子先生からお誘いいただき入会し、8年前、平成12年度日本女医会学術研究助成をいただきました。研究費をいただけたことは、その時点で研究を続ける上でとても励みになりましたが、それに留まらず、その後、研究教育機関の公募職に応募する際にも大変役立ちました。専門医や学位の取得後、卒後10年日以降にキャリア継続に困難を感じる女性医師は多いと思います。女医会の活動を通じて彼女達をサポートしていきたいと思っております。

現在、私は、医学部保健学科の准教授の職に在ります。医学科の教授は全員男性ですが、理事就任を数名の教授に伝えたところ支持的な言葉をいただきました。これにより、専門医や学位取得後の女性医師だけではなく、大学院生、学部学生を含む、更に若い世代にも女医会の紹介をし易くなりました。医学部卒業後、約半数は学外での研修を選択しています。この世代も含む若い世代に「日本女医会は専門分野も就業形態も様々な女性医師で構成されており、国際女医会の日本支部であること、従って、何を専門とし、どの様な就業形態を選び、どこで働くことになっても、日本女医会の活動に参加し、素敵な先輩、同輩達と出会い、サポートを得ることがができること」を伝え、女医会への参加を促したいと思っております。



## 新任理事に就任して

小関温子

このたび、私は日本女医会の理事に就任させていただきました。

今後は、小田泰子会長はじめ多くの先生方のご指導を頂きながら、非力ではありますが誠意をもってその責を全うするよう努力するつもりでおります。よろしくお願い致します。

私は、東京女子医科大学卒業後すぐ恩賜財団愛育研究所附属病院小児科に入局し、育児の神様と慕われていた内藤寿七郎先生に、保育室を担当しながら新生児、病室、外来で厳しく小児科医としてのご指導を受けました。

私は現在、川崎市で小児科医としてまた保育園医、小学校医として地域の育児支援に携わっております。また平成14年より、至誠会神奈川県支部長として、同窓会活動に加えて一般市民を対象とした公開健康講座をNHK横浜放送局との共催で開催し、地域の方々の健康づくりの支援に取り組んでおります。

さて、近年男女共同参画への協力が求められており今後社会の各分野で指導的地位を占める割合が増える事が期待されています。

現在女性医師の数は増えつつありますが、子育ての問題もあり女性医師の活動には制約があります。少子化に対する育児支援や保育園の問題に限っても実際の現場では、子供の両親や女性医師を含めた医師についても問題が多く理解と改善への協力、努力の不足が感じられます。



## 新理事として

川村富美子

東京女子医科大学を、昭和44年に卒業後、大学病院や幾つかの病院に勤務し昭和62年より東京の足立区で両親のあとをついで、内科を中心に開業いたしております。

予防医学に力を入れることで、ここ数年、各地で健康講演の講師としてまねかれることが多くなりましたが、その時はいつも「人に迷惑をかけず元気に長生き」というテーマで話をしております。各会場で話が終わると必ず、「信頼出来る先生を紹介していただ

けないか」、「自分の病状にあった病院はどこが良いのでしょうか」と相談されることが大変多くなり、患者さんたちは医者選びに苦慮されているということを知られました。

今回、日本女医会の理事にさせて戴いたことで各地の専門の先生とお知り合いになれて、困っている方々にニーズにあった先生をご紹介させていただくことが出来ればと大変期待しております。

また、増え続けるメタボリック・シンドロームの治療や指導も、現在は個人個人がばらばらにしている部分も多いので、日本女医会として統一した指導方法があればよいかと思っております。

今回、渉外を担当させていただくことで、私自身が、女医会がどんな仕事をしているのかを十分理解したうえで、各地区の先生方とコミュニケーションをはかりながら、女医会の仕事を知っていただくことや、先生方が女医会に求めている事を知ることでもっと大勢の先生方の入会の一助になればと思っております。

現在は何もわからず足手まといになると思うのですが、一生懸命努力していきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。



## 理事になって

澤口彰子

東京女子医科大学法医学講座在職中から橋本葉子日本女医会前会長のご推薦を頂き日本女医会理事にさせていただきました。理事以前は当然日本女医会会員として当会を維持し、学術研究助成や吉岡弥生賞を頂くことができ、自分自身のキャリアアップ、すなわち女性医師としてのキャリアアップに生かすことができました。本当に日本女医会に入会して、よかったと実感しています。また、日本女医会百周年の際には、橋本会長と娘（日本女医会会員）と皇居へ参内して、皇后陛下にお目もじいただき、百周年ご臨席のご快諾を賜りましたことは、その後の国際女医会への再度のご臨席を賜ることになり、うれしく思っております。この度再度、理事に就任させていただき、新たな気持ちで、公益法人としての日本女医会の仕事に邁進いたします。長らく、学術担当理事、渉外担当理事の仕事に携わってきました。今後は時代の趨勢に伴った高齢者社会福祉事業の推進、若年者犯罪事件防止の啓蒙や提言などを日本女医会を通して行っていけたらと思っています。



## 新理事就任の挨拶

宮崎千恵

この度、新たに日本女医会の理事に就任させて頂きました。

今年の年頭所感に、岐阜支部長として述べましたように、私がこの会に入会いたしましたのは、まだ年数が浅く、日本女医会のような歴史のある会の理事としての重席が務まりますかどうか大変心配ですが、一旦お引き受けした以上、他の理事の先生方の足を引張らないように、一生懸命頑張る所存でございます。

昨今の医療を取り巻く環境は女性医師問題に限らず、大変厳しく、医療に携わる私どもにとって、医療費の削減、新研修医制度などに起因する医師不足など、崩壊に向かっている日本の医療問題をどのように食い止めたらよいか、女性医師の視点からも、色々な所に提言をしていかねばならないと思います。

こうした状況下での日本女医会の担う役目は大変重いと思います。

平成10年頃より女性医師数が次第に増加し続け、それに加え地方の医師、また産科、小児科、麻酔科などの医師不足が大変深刻な問題となってきたおり、今更ながら、女性医師の働く環境問題がスポットライトを浴びて来ました。

最近では、女性医師の働く環境などについてのフォーラムや研修会が盛んに開かれ、この問題が検討されていますが、現実には、勤務医を雇用する行政側や、病院経営者、上司、大学の医局、同僚の多くが男性であり、実際にどのような環境と、精神的サポートが必要かといった議論がまだまだの感があります。

働く意欲がある女性医師がどのようなきめ細かなサポートのもとでなら、長く仕事を続けられるか、またそれが日本の医療にとっていかに必要かということを検討し、各方面に色々な方法で提言していけたらと思っております。

また、この度、広報担当の末席を汚させていただきますので、この女医会の活動状況を、出来るだけ多くの全国の医療従事者の方に知って頂きたいとも思っております。

どうか、日本女医会の会員の皆様、ご支援の程よろしくお願いいたします。



## 日本女医会理事就任挨拶

宮本治子

この度、長い歴史を持ち名誉ある社団法人日本女医会の理事をお受けすることになりまして、その重責に身の引き締まる思いでございます。女医の先輩でいらっしゃる吉岡彌生先生、荻野吟子先生並びに諸先生方が、培ってこられた女医としての地位を後輩に引き継いでいくという責任を感じております。

医療崩壊が叫ばれている今日、“人々の為になる医療”について討論することが緊急の問題のように思います。又、広い視野に立ってみれば、これは医療界だけのものではなく色々な分野において、今日抱えている問題のように思います。人間としての生き方の多様性、“誇り”を持って、一生涯仕事を続ける事の難しさが問われているように思います。

女性が医師として生きる事、女性の特性を生かしつつ医療を続ける事、この困難をどう解決し、それにはどのような施策が必要なのか、又、子供や女性や高齢者の方々の医療について、女性でなければ分からない部分を医療の中に生かしていくという役割が求められていると思います。

自分の人生を医師として生きようという心が、結婚や出産や介護等、人生の困難な時期を乗り越えて、一生涯医師として仕事を続けていく為の、又たえず研鑽を積み重ね医師の心を忘れない為の、エネルギーになっているのではないかと思います。人々を愛するという心が生涯現役の原動力となっているのではないのでしょうか。希望を持って医学の道を極めようとしている若い女性医師の皆様方が、挫折する事のないように色々な場で、自分の医師としての居場所を見出し、社会に貢献出来る様な体制を作っていくためにも、日本女医会の存在が大きな力となりますように女医会の今後益々の発展を祈念致しまして、微力ながらお役に立てるよう頑張る所存でございます。

若輩者ではございますが、会員の皆様方どうかよろしく御指導、御協力ほどお願い申し上げます。そして、2009年5月の大阪開催の総会には多数の先生方の入会とご参加をお願い致します。



## 新理事に就任して

矢口有乃

このたび、皆様のご支援とお力添えのもと、日本女医会の理事に就任させていただくことになりました。身に余る光栄と、その責務の重さに身の引き締まる思いでございます。

社会環境、経済構造、世代間での生活観や価値観、常識までもが、めまぐるしく変化している現代において、出産や育児の世代に一番近い理事として、微力ながらも是非ともお役に立ちたいと考えております。私たちの世代は、受けてきた教育も、また職業を選ぶにあたり医師になることも同世代の男性達と差別を感じることはない環境で育ってまいりました。また女子医学生、女性医師の数が、年々増加している現在では、日本女医会への参加の意義も疑問視する世代でもあります。最近では、男性医局員達も家庭において積極的に育児に参加しているように見受けられます。

しかし、女性として母親としての家庭での役割と、医師としての役割をバランスよく両立し遂行できるための環境が、いまだ社会的に充実、整備されているとは思えず、個々の家庭環境に委ねられており、女性医師個人が、家庭と仕事との両立という課題を抱えながら働いているのが事実です。私は、今こそ、この日本女医会が、女性医師支援において大きな役割を担うと同時に、社会を変える原動力の一つとなると考えております。日本人のモラルの低下や、殺人事件の増多など、日本の社会が崩壊していくような暗いニュースが日々流れます。私は、やはり社会を構成する最小単位は、家庭であり、その家庭がしっかりしたものでなければ、社会も歪むものであらうと思えます。先日、東京女子医科大学の医学部生に講義をいたしました。彼女たちが、医師としての carrier を磨き、その professionalism を社会に活かして職業人として輝くと同時に、家庭を築き、素敵なお母さんになれるよう、その過程での悩みや負担を社会の中で少しでも減らせてあげたいな、とつくづく感じました。このたびは、渉外という係を務めさせていただきます。外に目を向けさせていただく機会をいただき感謝しております。理事としての仕事をさせていただく中で、自分自身がより多くのことを学び、より一層育つよう努めていく所存です。至らぬ点、多々あるかとは存じますが、その度毎に、ご指導いただけましたら幸いです。よろしくお願い申し上げます。



## 新理事に就任して

山田邦子

私は、前橋市に無床診療所を開設して28年になる内科医です。連れ合いも娘も同じ内科医ですが皆独立しております。私は地域医療に従事しておりますが、前橋市医師会の理事として2年、副会長として6年（平成19年まで）、また、群馬県女医会副会長として5年努めさせていただいております。

前橋市医師会活動としては、市内院内保育園について調査・要望し、それまで補助金の関係から受け入れられなかった女医の子供も利用出来るようになり、市内の群馬大学附属病院に、病児保育付き12時間保育の院内保育園を新設してもらったこと等があります。また、群馬県医務課の女性医師支援対策事業としての女性医師再研修事業、再就業事業に参画し、年間数名の就業に尽力致しております。

しかしながら、女性医師の就業環境はまだまだ厳しいものがあり、そのため十分に活用されていないのが現実です。これは、女性医師ばかりでなく、医師全体に当てはまることなのです。群馬県では、女性医師支援事業を医師確保対策事業と改めました。

今や30～40%を占める女性医師が、いかにその使命を活用出来るか、社会的な重大問題となってきております。今こそ女医会の団結と活躍が求められているのです。今活動されている女性医師がその経験と、叡智をもって後輩医師の育成に尽力しようではありませんか。

日本女医会は、女医だけの問題でなく、医師会、病院会、勤務医会、行政、あるいは他の業界と連携して、医療界全体に貢献する一大集団であると期待致しております。



## 第53回 日本女医会総会

## 会長挨拶

小田泰子

皆さん、こんにちは。お忙しいところ、日本各地から遠路はるばる日本女医会総会にご出席いただきましてありがとうございます。今年は役員改選の年に当たります。役員改選の年は東京都支部連合会にお願いして総会を開いて参りましたが、日本女医会の会則が変更されまして役員任期が2年になりました。2年に一度では東京都支部連合会にご負担をおかけし過ぎるということで、今年は本部が主催いたしました。緊縮財政の折ですので、質素に会を開催するべく努力いたしました。昨日は評議員会後のアトラクションを会員の大坪公子先生にお願いしましてピアノ伴奏による独唱を聞かせていただきました。素晴らしい声で良い雰囲気でした。

また、役員任期満了に伴い立候補をお願いしましたところ、多くの方に立候補をしていただきました。これも日本女医会に対する皆さんの関心の深さを示すものと有り難く受け止めています。ただ、定員21から25名のところに26人の立候補がありましたので選挙の準備を致しましたが、お一人の方から一昨日金曜日の夜に辞退届をいただきまして、選挙はしなくても良いことになりました。ほっとしております。これから、新役員の中から会長、副会長を選んでいただくこととなります。

今年も吉岡弥生賞、荻野吟子賞、研究助成金などを、多くの立派な業績を上げた方に差し上げることができました。このような会員は他にも多くおいでのことと思いますが、この方たちは日本女医会の誇りです。そして、私どもにとりましても吉岡弥生賞、荻野吟子賞などの賞を続けていかれることを非常に嬉しく思います。でも、先ほど緊縮財政と申し上げましたが、それにつきまして、ご報告をさせていただきます。

吉岡弥生賞は、第3代会長の龍千恵子先生のご発案で、会員の荒川あや先生のご寄附でできた賞であることは、皆さんよく知っていらっしゃると思いますが、これまで約40年、その寄附金の利子で賞の運営をして参りました。ところが、最近の低金利政策のために、原資に手をつけなければ吉岡弥生賞の存続が危うくなって参りました。申しわけありませんが、もともと会員の寄附でできた賞ですので、再生を図るに当たって会員にご寄附をお

願いするのも、この賞の成り立ちから良いことではないかと考えまして、またご寄附をお願いすることにいたしました。

また、これから会務報告で申し上げますけれども、去年は日本女医会は多くの活動を行いました。既に会誌でもご報告しましたが、今年も日本医師会も2年に1度の役員改選の年でした。日本医師会の役員改選に当たり、日本医師会には一人も女性の役員がいないことから、「ぜひ女性の役員を」とお願いしましたが、なかなか簡単には参りません。でも、そのような発言をすることは、それだけで意味があると私は思っています。

上川陽子男女共同参画特命大臣にお目にかかりました。大臣はあらゆる審議会、委員会に女性を30%入れることを目的にしていられたいです。上川さんにも日本医師会の事情をお話ししましたところ、早速、日本医師会の役員会に出られて、日本医師会に女性の役員を入れるようにとお話しをされたそうです。もちろんそれに対して具体的な動きはありませんが、このような活動がいずれは芽が出ると期待しています。

また、日本の医療政策は、今の後期高齢者の医療制度を含めて、非常に弱者に冷たい経済優先の政策であることを最近特に感じます。小さい政府、それが良いことのように言われますけれども、経済原理優先の政治です。皆で平等に負担をと言われますけれども、弱者にも平等に負担を課することは悪平等であると私は思います。政府の医療計画を立てる人に長期視野に立って、弱者に対する心の温かみを持った人がいなければ、これからの医療施策はだんだん冷たいものになっていくと感じています。

女の人は日々の買い物をし、子供を育て、そして親の介護をするということで、生活と密着して生きています。政治の場で発言する力、役割を持つ女性がたくさん出てきてくれることを期待しています。今日表彰を差し上げる方にも、県議員、市議員として活躍された先生もおいでですが、皆さんの中にそういう方がおいでであれば、私どもは両手を挙げて応援したいと思っています。

医学を学ぶ女性はどんどん増えています。今年の医師国家試験合格者の35.4%が女性でした。合格

率を見ますと女性の方が高いのです。女性はまじめで一生懸命勉強をしますけれども、ガラスの天井というか、いざ何か役職につく時期になると非常に道が狭くなります。残念なことです。ジェンダーギャップというのですが、世界的にいても日本では非常に深いのです。日本の女性の教育程度は高く、ある程度の社会進出も果していますが、女性の社会進出で少子化を招いた国は世界で日本だけなのです。よその国では仕事をしている女性が増えるに従って子供の数も増えているのです。それだけ日本の保育環境がよくなり、労働時間が長く、生活時間にゆとりがないことを示していると考えます。

私たち女性医師に道を開いてくれた吉岡彌生先生、荻野吟子先生をはじめ、たくさんの先輩が今までいろいろな壁に突き当たって、涙を流し、汗を流

してくれたおかげで今の私たちがいるのだということをおもいます。今まで私たちが受けた恩恵を、後から来る人たちにぜひ返していきたい。また、若い先生たちにもぜひそのことを知っていただきたいとおもいます。

昨年は余り果たせなかったのですが、各支部を訪問させていただいて、日本女医会の活動を支部の先生たち、こういうところにおいでになれない先生に知っていただき交流を深めたいと考えています。お呼びいただけたところがありましたら、ご迷惑をおかけしないようにしますので、ぜひ声をかけてください。

日本女医会はこれからも女性医師の総意を受けて、女性医師を支援する独自の団体として、活動を続けて参りたいとおもいます。どうぞご協力とご援助をお願いします。(拍手)

## 各賞と研究助成授与

### 各賞受賞者と受賞理由

#### ○吉岡彌生賞○

##### ●医学に貢献した会員 広島支部 伊藤千賀子

広島大学医学部を卒業後、同大学の内科教室にて研鑽を積み、同大学講師となられる。広島原爆被爆者健康管理所勤務の傍ら、経口ブドウ糖負荷試験の経年観察を行い、糖尿病発症とインスリン抵抗性の関与を明らかにした。この研究は日本糖尿病診断基準改変に寄与した。

##### ●社会に貢献した会員 新宿支部 今野信子

東京女子医学専門学校を卒業後、日本赤十字大連病院眼科、帰国後に順天堂大学眼科医局を経て四谷新宿眼科、後に、新宿眼科を開業。これまで70年余眼科医として地域医療に多大な貢献をし、その功績に対し文部大臣賞、東京都知事賞を受賞。これまで日本女医会の発展のために折に触れ尽力された。

##### ●社会に貢献した会員 静岡支部 竹内静香

大阪女子医科大学を卒業後、日本赤十字福井病院などの勤務を経て、昭和29年に熱海診療所を開設し、以来、半世紀以上に亘りここで診療をされてこれ、この間、静岡県女医会会長、日本女医会役員、熱海市医師会副会長、熱海市議会議員、静岡県議会議員などを歴任されつつ、老人・女性・環境問題等に取り組みされた。

#### ○荻野吟子賞○

##### ●佐賀支部 緒方文江

関西医科大学を卒業後、長崎大学医学部細菌学教室、その後、長崎大学小児科教室に入局。昭和46年には佐賀県で白石保養院、日見中央病院を開設し地域医療に多大な貢献をした。その傍ら私財を投じて青少年のスポーツ育成に力を注がれた。その幅広い活躍に対する受賞。

##### ●秋田支部 吉本ミチ

東京女子医学専門学校を卒業後、北海道大学眼科医局に入局し、その後、秋田で眼科診療を始め、以来70年余、現在も眼科医として地域に多大な貢献をした。長年に亘る活躍に対する受賞。

#### ○学術研究助成○

##### ●文京支部 大久保由美子

女子医学生及び女性医師の職業意識を限定する因子に関する研究

##### ●東女医内支部 藤巻わかえ

小児期のアレルギー性疾患発症に関する免疫学的基盤の解析

## 受賞者の言葉



### 後輩に送る 吉岡弥生賞受賞 の喜び

広島支部 伊藤千賀子

この度、日本女医会の吉岡弥生賞を賜りましたことは私にとりましてこの上ない榮譽と存じております。この賞にご推薦いただいた東京女子医大の大森安恵名誉教授、内潟安子教授をはじめ御選考を賜った小田泰子日本女医会会長や執行部の諸先生方に心から厚く御礼申し上げます。

私は広島大学医学部を卒業後、第二内科に入局しましたが、和田直教授から被爆者集団について糖尿病研究をせよとの話がありました。研究的なことは全く分からず、何をすればよいのかと考え、早速現地、原爆被爆者健康管理所を視察しました。これが研究の始まりで、ほんの数年前のような気が致しますが、既に40年以上の歳月が過ぎ去り皆様方から大きな評価を頂きましたことは私の人生でこれに勝る喜びはございません。

私の研究は1965年から継続した糖尿病疫学研究であり、この研究で日本人における2型糖尿病の発症過程を初めて明らかにし、日本人においてもインスリン抵抗性が糖尿病発症と関連することを示す有力なエビデンスとして国内外に認められました。また、糖尿病診断基準〔ブドウ糖負荷試験(OGTT)の判定基準〕が1999年に変更されましたが、蓄積されたデータを活用して空腹時血糖値(FPG)とOGTT 2時間値の関連、網膜症発生率等から、FPGの診断基準である126 mg/dlは日本人にも適切であると結論しました。虚血性心疾患死亡リスクはFPGよりもOGTT 2時間値と関連しており、インスリン抵抗性も関連することを明らかにしました。1997年から5年毎に厚生労働省は糖尿病の実態調査を行っております。集団の糖尿病頻度を推定するためにHbA<sub>1c</sub>値を検討し6.1%以上が妥当と結論しました。その後この値が広く用いられております。これらの研究はOGTTを中心とする一貫した手法で経年観察を行い、6万件に及ぶ長期にわたる完璧なデータ収集と詳細な解析から得ることができました。

私は研究者として優れているわけではありません。

与えられたテーマを大切にして研究と真面目に取り組んで来たことで大きな成果を得ました。後輩の先生方に根気よくご自分の研究に勤しん頂ければ十分な評価が得られることをお伝えしたいと思います。



### 吉岡弥生賞を 受賞して

新宿支部 今野信子

去る5月18日、日本女医会総会に於て思いがけなく吉岡弥生賞を頂きました。94歳の私にとって、このまま頂いて良いのか、ためらいと大きな感動を頂き何とも言えぬ胸の高鳴りを覚えました。と同時に、この様な大きな賞に値する足跡を日本女医会に残したであろうか、反省して己を顧みることしきりでした。

ともあれ会長はじめ諸先生の深い御心づかいの結果であると、ここにあつかましく頂くことに決心して、紙上より厚く御礼申し上げる次第でございます。

日本女医会は、出身校の異なる会員によって結成されている会で、会長はじめ執行部の先生方が少なからず気配りをされつつ会を運営されていることと私は日本女医会の会に出席する度に憶い、ご心労に、かげながら感謝申し上げている次第です。海洋冒険家の堀江さんが百歳まで冒険を宣言されましたが、私も日本女医会の一会員として何の役にも立ちませんが、百歳会員を目指し達成できるよう、この余生を頑張りたいと思っています。

大きな事を書きましたが、昭和10年から94歳の現在に至るまで、会員として所属する日本女医会、至誠会に関しては、常に種々の情報を耳にし、頭に入れ、いろいろの会にも出来るだけ出席し会の現状を認識しておく所存でございます。東京都支部連合会は、設立の意義を感じて会長をリーダーに、執行部が一所懸命努力され、今日の連合会があると思います。

出身校それぞれの校風を身につけて役員会に出席される諸先生各位に、敬意を表するところであります。このたび身にあまる吉岡弥生賞を頂き、自分にこの賞を預ける資格ありやなしや、戸惑う所ですが、生きている限り、医師であり、日本女医会の会員であります。今後共よろしく御指導御願ひ申し上げ、諸先生の御健康と、本会の益々の発展を念じます。



## 吉岡彌生賞を受賞して

静岡支部 竹内静香

緑の美しい5月18日、新宿・京王プラザ47階「あけぼの」において第53回日本女医会総会が

開催され、その席上、吉岡彌生賞を授与されました。医師として人間として偉大な先生を日頃より尊敬申し上げ、特に静岡県ご出身で憧れている先生の賞を頂くという事は、この上もない名誉であり無上の喜びであります。皆様に心から感謝申し上げます。

受賞の事が報道されると逸早く患者さんが、目に涙を浮かべながら「先生、おめでとう。よかったですね」と。また静岡新聞を始め、テレビ等マスコミ報道があり、熱海市長からも「熱海の誇りです」など多数の方々より言葉をかけられ、お祝の花が届けられました。

静岡県女医会総会では、ユニークな経歴の賞状であると皆様に披露され、お祝いをしていただきました。後日、会員より葉書が送られ、「賞状と楯を見せて頂き、久しぶりに先生とお目にかかり元気を頂きました」「素晴らしい先生方がいらっしゃることを知りました」「同じ県の女医として誇らしく思います」など……。受賞の感激と感謝を新たにしました次第です。

6月7日、掛川下土方の吉岡彌生記念館へ受賞の報告に行き、館長・橋本葉子先生に特別に記念撮影の許可をいただき、吉岡先生の御机の上に賞状と楯を置かせて頂き写真を撮りました。しかも今年11月に開かれる開館10周年記念式典へのご案内を頂きました。現在吉岡先生の足跡が詰まっている記念館の廊下に多数展示されている語録を紹介させていただきます。

### ○医師のあるべき姿 医は仁術

医師は単に科学者ではありません。常に精神と精神のふれあいで、本当の人格者でなければなりません。

### ○彌生式健康法 微笑は長寿の秘訣

何事に対しても微笑して行ける人は、心のくったくもなくいつも朗らかです。かかる微笑の人は必ず長寿を得ます。

語録には健康法や人生訓などの教が一杯詰まっています。吉岡先生の教えを守り、精進を重ね、命ある限り社会のお役に立っていこうと胸にきざみつつ帰途につきました。

今年はいくしくも吉岡彌生先生の50回忌に当たります。謹んで 合掌



## 荻野吟子賞を受賞して

秋田支部 吉本ミチ

第53回日本女医会総会において、荻野吟子賞を受賞させていただき、心から感謝申し上げます。ご推薦いただきました秋田支部長の秋山まり子先生と日本女医会理事の古賀詔子先生（宮城支部）には御礼申し上げます。秋田支部では初めての受賞であり、支部の皆様からも、大変名誉なことと慶んでいただきました。

私は昭和11年に東京女子医学専門学校（現東京女子医科大学）を卒業し、昭和14年に秋田市土崎港に眼科医院を開業以来、94歳の現在まで現役医師として、地域で働いてきました。

開業当時は医療機関が少なく、衛生的な習慣も普及していないため、種々の眼科疾患に悩む住民が多い状況でした。地域の唯一の眼科専門医として、診療はもちろん、30数校の校医として昭和15年から56年にわたり、児童生徒及び職員の検診、疾病予防、健康教育に努めてきました。

女性医師が少なく封建的な意識の強かった時代でしたが、夫の協力を得て、家庭と仕事をどうにか両立させ、3人の子供を育てました。3人とも医学を目指し、私の志を引き継いでくれたことはうれしい限りです。長女（山本蒔子）は現在日本女医会の理事（宮城支部）を務めております。

日本女医会秋田支部には昭和34年に入会しました。女性医師として働く苦勞を共に語れる女医会は心の支えでした。会長を昭和42年から55年まで13年間させていただきました。日本女医会のますますのご発展をお祈り申し上げますと共に、これからも、体力の続く限り、若い先生たちと協力して、支部の活動を活発にしたいと思っています。



## 荻野吟子賞を受賞して

佐賀支部 緒方文江

第53回日本女医会総会の席で図らずも荻野吟子賞を受賞させていただきました。顧みましても私にとりまして誠に過分の賞でございます。幾多の苦難を乗り越えて、女性医師第1号として医療面以外にも荻野吟子先



生は多岐に亘り社会的にも貢献なさっておられます。

振り返ってこれという才覚もなく、ただただ患者さんと向き合い医療を行っております。患者逝く毎に白髪を量し、癒ゆれば仍ち深まる笑皺の層とでも申しましょうか、目下精神科医として、心の病や障害者からの相談、原爆後遺症に対する対応、また地域婦人会の相談、青少年の心と身体の相談など微力ながら励んでおります。

スポーツ面では小学校6年生を対象に全国から夏休みに1週間、168名の男女が集まり「子供達よ世界に翔け」とグラスホパーの名のもと芝生のテニスコートで、テニスの合宿鍛錬。生活態度、スポーツと栄養指導等、総務省、文部科学省の後援を得ての10年計画、早や4年が経ちます。

また、佐賀県陸上競技協会会長として10年、数多くの陸上競技大会に関与しております。埼玉国体の折、選手の激励に訪れ、その足で萩野吟子先生の足跡をひとり訪ね歩き、大利根川のほとりに佇む吟子像を見やり、ひとしおの感激を覚えました。その事を埼玉の深井先生にお話しし、この受賞がめぐりめぐり人間の営みをさらに感じました。縦横の計も無く、歳月を刻んだ私ですが、これからも自然体で多くの方々への支えに感謝し、知恵を出し合い努力いたす所存でございます。この度の賞にご推薦いただきました佐賀支部長横須賀先生、女医会の理事の先生方に厚くお礼申し上げます。最後になりましたが、日本女医会のますますの発展と会員の皆様方のご健勝を心より祈念いたします。



## 学術研究助成受賞に 寄せて

文京支部 大久保由美子

この度、研究課題「女子医学生および女性医師の職業意識を規定する因子に関する研究」に対し学術研究助成を賜り、誠にありがとうございました。

本邦の新規医籍登録者に占める女性の絶対数は増加する一方で、結婚・出産・育児を契機として就労形態を変化させ、離職してしまう場合も少なくありません。時間的・経済的な医師育成の負担を考えればこれは莫大な社会的損失であり、職場環境の整備が急務です。さらに女性自らが高い職業意識と自立心・社会的責任感を保持する事が、離職防止に重要と考えられます。女子医学生と女性医師の持つ資質・特徴・職業意識を分析し、卒前・卒後・生涯教育およびり

メディカル教育に活用することが、女性医師が継続的に医療現場で活躍し、国民の健康維持を担うことに繋がると考えます。

本研究では東京女子医科大学医学部学生および大学病院で働く女性医師に対し、横断的および縦断的なアンケート調査を行います。医師を志す理由、仕事への興味・感情、責任感、奉仕の精神、慈しみの心、ロールモデル、同性・異性・異年齢層の患者・患者家族・医療従事者とのコミュニケーション能力、人生設計、収入に対する満足度、就労継続に障害となる要素などを到達度評価や職業アイデンティティ尺度で解析します。卒前・卒後教育の場での職業意識に関する重大な経験暴露の有無、対象者の属性などを分析し、職業意識を規定する因子について解明します。女性医師の確保と社会貢献に関する研究、女性医師のキャリア形成のための教育方法と教育評価方法の開発の一助となる事を期待します。

今回第53回総会に出席し、諸先生方の御熱意、生涯自己研鑽されるお姿に感銘を受けました。また本研究に多くの先生方が興味をお示し下さり、貴重な御意見を賜りました。女医の活躍する場を広げようと活動して下さっている諸先輩方の温かなお気持ちに触れ、大変嬉しく感じました。

最後に日本女医会会長の小田泰子先生はじめ選考委員の先生方、本研究の機会を与えて下さいました東京女子医科大学医学教育学・吉岡俊正先生、内分泌内科・高野加寿恵先生、本研究にご協力頂いている諸先生方に深謝致します。今後ともよろしくご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



## 学術研究助成受賞に 寄せて

東女医学内支部 藤巻わかえ

このたびは、研究課題「小児期のアレルギー性疾患発症に関する免疫学的基盤の解析」に対し日本女医会学術研究助成を賜り、心より御礼申し上げます。

私はもともと小児科医であることから、感染症やアレルギー疾患との関係において、ヒトの免疫担当細胞の成熟に伴う免疫応答能の変化に興味を持ち続けてきました。免疫担当細胞の中でも、研修医時代には好中球を、アメリカ留学時代では単球を、帰国後、母校の微生物学免疫学教室に在籍するようになってからはT細胞を中心に研究してきました。昨年春か

ら女子栄養大学に移りましたので、栄養学的な観点を加えた新たなステージでの研究をめざしたいと考えております。その一つとして、今回アレルギー疾患に関する課題を応募させて頂きました。

食べ物アレルギーやアトピー性皮膚炎は小児期に多くみられ、小児期という成長発達の盛んな時期においては、栄養学的にも大きな問題となっています。アレルギーの免疫学的素地は胎児期に始まり、その後、種々の要因によりアレルギーへの方向性が決定されると考えられておりますが、その詳細はまだ不明のことが多いのが現状です。私は今まで、臍帯血由来の免疫担当細胞の機能を、成人末梢血のそれと比較検討してきましたが、臍帯血では単に「未熟」あるいは「低反応」というわけではなく、場合によっては成人より

も高い応答能を示すことを報告してきました。免疫担当細胞の種類により異なる成熟過程を示す小児期では、外界からの刺激に対する個体としての免疫応答は一律ではなく、アレルギーへの方向付けもまたダイナミックに変わっていくものと考えられます。本研究では、臍帯血中の種々な免疫担当細胞が織りなすトータルとしての免疫応答能を明らかにして、乳児期におけるアレルギー成立へのメカニズムを探り、アレルギー疾患の予防と治療へ結びつけたいと考えております。

最後になりましたが、日本女医会会長の小田泰子先生をはじめ選考委員の先生方、および女子栄養大学・学長香川芳子先生に深謝申し上げますとともに、今後ともよろしくご指導、ご鞭撻の程お願い申し上げます。

## 心洗われたシスター渡辺のご講演

理事 藤川真理子

渡辺和子先生は、悩みながらご自分をみつめ人格を高められてきた教育者であります。その先生のご講演を本総会では拝聴することができました。シスターのお話をお聴きになった先生方からは、「凛として温かく、笑顔が素敵でした」「心が洗われた」などのご感想を多数いただきました。以下に講演の抄録をまとめさせていただきます。

### 「壁」であり続けること

81歳のこの年になっても大学で教えている。近頃、世の中が本当に変わってきている。人間とペットの境界線がなくなり、飼っていた猫が死んだという欠席届も、『思う通りに、好きなことだけして、嫌なことはしない』今の学生達は、ものの考え方、価値観も変わって本当に壁なしに来ている。ミッションスクールに縁あって学ぶのだから、私は、学生達に世間でまかり通っているものと異なる価値観を提示したい。損得と善悪が一緒にある時に何を選ぶか、教師として学生が考え悩むための壁であり続けたい。

### マザーテレサの『死を待つひとの家』

マザーテレサは20世紀、私達と同じ時代に生き、神に仕える人間の謙虚な姿、『無償の愛』を、ラディカルに徹底的に示された。「中絶するに手遅れで望まれずしてこの世に生まれ、蔑まれ、生きていてもしかたがないとまで思っていたホームレスの人達を、路傍で死につつあるところを『死を待つ人の家』に連れてきて、ひとりひとりの魂を大切に、名前を聞き、宗教を尋ね、身体を清拭し、薬をのませ、生まれてこの方、受けたことのない温かい看護を与えると、親を救い、世間と和解し、そして、『神様、仏様はいらっしゃる、その証拠に、こんなに親切にしてもらった……。』と心を取り直して、この世に感謝をして死んで行く。そのために使われる薬ほど、

人手ほど尊いものはないのです。」とおっしゃった。

### 現代の忘れもの

私達は忙しさのあまり、口もきかないロボットと同じような機械的な仕事のしかたで、優しさを、ゆとりを失くしている。忙しさは、心を亡ぼす可能性がある。人間として、内的な内部的なゆとり、笑顔、やさしさ、思いやりを「忙しさ」の中で忘れていないだろうか……私たちが人間の尊厳を忘れて、自分の都合のよいことだけを考えると、世の中は本当に大きな忘れものをして、いつのまにか收拾がつかないように道徳心が失われ、ひとりひとりが自分のことしか考えない、そういう恐ろしい世の中になる可能性がある。

人に助けを頼むということは、面倒なこと、嫌なこと、悲しく辱いこと……ところが文明は次々と自分一人でも生きることを可能にするものを創りだす。でも、その便利さが失わせる「人様をお手伝いしようという気持ち」もまた「現代のわすれもの」である。

### 愛の反対は？

愛の反対は、憎しみではなく「無関心」。私たちはもっとお互い同士、微笑みあい、言葉をかけあい、褒めあい、温もりを伝えあうことが親子でも夫婦でも必要。人からされて嬉しいことは人にする。人からされてつらかったことは、人にしないこと。

## 思いやりを育てる

文明の世の中はありがたい便利な世の中だけれども、お互いがお互いを考えないで済む。自分勝手、自分中心では、やがてはさみしい世の中になる。子供は、親の言う通り、教師の言う通りにはならない。親のする通り、教師のする通りになる。人は皆自分中心だけれども、それを何とかして思いやりのある自分に変えていくことが大事。

「不機嫌」というのは周囲を汚す環境破壊。だから、私達は、できるだけ微笑み、温もりと相手を傷つけない言葉がけをしていきたい、同じ年をとるなら財産になるように年をとっていききたいもの。

## 「大海も一滴から」

「ノーベル平和賞を受けた有名なあなたが、何故、こんなにつつましい仕事を……病人や孤児を養い、死んでいこうとする人を安らかに死なせてやっている……群集や政府を動かさずに、ひとりひとりの人と向き合うこんな小さな規模に終始しているのか?」と、訊ねられると「大海も一滴から成り立っています。」とマザーは答えられた。

## モンスターペアレント

私達に大切なことは、『自分が変わる』ということ。モンスターペアレントと呼ばれるように、理不尽で無茶苦茶な自分のことは棚にあげて『学校が悪い、先生が悪い、〇〇さんが悪い!』、『私だけが悪くない!』、という親達が増えており悲観的になるが、だからこそ、そこに、一滴でも集めることができたなら、それでいいんだと自分を励ますことがある。

## 美しい歳のとりかた

現代の人が忘れてしまった『無償の愛』、『相手の人を思いやる』、『人助けをする』、そして、自分といものを忙しさの中に埋もれさせない『内面的な成長』による『美しい歳

## 渡辺和子 先生 (シスター渡辺) Profile

昭和2年旭川生まれ。父上は渡辺錠太郎陸軍教育總監(陸軍大将)。昭和11年(9歳)、二・二六事件により、父上が銃弾に倒れる姿を目撃するという衝撃的な体験をされる。その後、雙葉高等女学校、聖心女子大学をご卒業、昭和29年上智大学大学院を修了。昭和31年(29歳)ナミュール・



ノートルダム修道女会に入会。同会よりアメリカに派遣されボストン・カレッジ大学院にて哲学博士号を取得後、帰国。昭和38年、36歳という異例の若さでノートルダム清心女子大学学長にご就任(平成2年まで)。昭和49年岡山県文化賞受賞。平成2年ノートルダム清心女子大学名誉学長、学校法人ノートルダム清心学園理事長。平成4年～平成13年 日本カトリック学校連合会理事長。

ご活躍の陰でご苦労も多く、50歳の時にはうつ病の経験も。しかし病を乗り越え、学生たちを常に温かく見守り、教育者として、シスターとして多方面で功績を残していらっしゃいます。

著作『心に愛がなければ』『信じる愛、持っていますか』『人をそだてる』(PHP文庫)など多数。

のとりかた』を忘れないでいたいと思う。

## 一生の終わりに残るもの

自分が外国で集めてきた珍しいもの、貯めたお金は遺産として他人の手にわたる。「平和の祈り」にあるように、慰められるよりも慰めることを、理解されることよりも理解することを、愛されることよりも愛することを……自分がもらうというよりも自分が与える……これは、ある意味で自分が損をする「持ち出し」の生活かもしれない。けれども『私達が死んで自分と共に残るもの……それは一生の間に我々が集めたものではなく自分が与えたもの。』そのことを時たま心に留めたいと思う。

## 懇親会で ソプラノを楽しむ

練馬支部 角田由美子

第53回の総会は、本部の役員だけで企画実行した。これは初めての試みである。すべてをシンプルに、低予算で、を心がけた。例年懇親会では、担当支部がそれぞれに素敵なプログラムを組んで楽しませて下さる。しかし今回は特に何も無しで!と考えていた。4月に入り、しかし……役員はタレント揃い、役員の中

で何か出来ないだろうかと皆に諮り、急遽大坪公子先生に素敵なソプラノを披露して頂く事にした。

大坪先生は快くお引き受け下さり、ピアニストのご同道は勿論、ピアノやプログラムまでご自分でご用意して下さいました。



時間も特別にはとれないので、失礼ながらみんなが食事をしているところでの歌唱となった。

ご存じの様に大坪先生は、日本女医会の理事歴14年、広報部員として日本女医会百年史の編纂などに大活躍をされた方で、三軒茶屋病院院長他数々の病院、施設の理事長、また大学の学長などをも務められている。この超多忙な先生が平成2年より牧野庸子先生に師事されて声楽を学ばれ、昨年秋にはリサイタルも開かれた。懇親会でのプログラムは

- # 1 この道
  - # 2 歌劇「運命の力」より“神よ、平和を与えたまえ”（ヴェルディ）
  - # 3 朧月夜
  - # 4 椰子の実
  - # 5 歌劇「蝶々夫人」より“ある晴れた日に”（ブッチェニ）
- 五十の手習いとはとても思えぬ歌唱力で、みんなを楽しませて下さった。
- 最後にみんなで“千の風になって”を歌い楽しい懇親会の幕を閉じた。

## 社団法人日本女医会 定時総会議事録

日 時 平成 20 年 5 月 18 日 (日)  
 場 所 京王プラザホテル  
 (東京都新宿区西新宿 2-2-1)  
 午前 11 時 02 分開会  
 司 会 古賀詔子  
 社団法人日本女医会総会開催に際し  
 会員数 1,700 名  
 出席数 115 名  
 記名委任数 547 名  
 白紙委任数 232 名  
 以上のとおり日本女医会定款第 27 条の定足数 340 名に達し、総会が成立する旨の報告あり、開会を宣す。

会長挨拶 小田泰子  
 物故者への黙祷  
 平成 19 年度物故会員に黙祷  
 報告(資料別添)  
 1. 会務報告(会員動静、会費入金状況) 古賀詔子  
 2. ナショナルコーディネーター報告 内潟安子  
 3. 会計報告(総会、理事会及び各委員会報告) 山崎トヨ  
 以上について資料にもとづき報告、承認される。  
 議長団選出 中野慧子、野崎京子  
 [議長団、議長団席に着席]  
 議事録署名人名人選出 野々田宣子、木下晴美

### 議 事

#### 第 1 号議案

・平成 19 年度事業報告の承認の件 山崎トヨ  
 配布資料の資料にもとづき報告、原案どおり可決

#### 第 2 号議案

1. 平成 19 年度一般会計収支計算承認の件 高原照美
2. 剰余金処分案 高原照美

3. 平成 19 年度特別会計計算の承認の件 森川由紀子  
 ・吉岡弥生賞基金  
 ・国際女医会儀記念事業記念基金  
 ・独立行政法人社会福祉機構助成金  
 以上配布資料に基づき報告  
 会計監査報告 中井紀子  
 監査の結果適法かつ正確であることを認める旨の報告  
 よって第 2 号議案は原案どおり可決

#### 第 3 号議案

・平成 20 年度事業計画案 鹿田儀子  
**庶務部**  
 ・諸会議(理事会、総会、評議員会)の開催  
 ・会員増加推進  
 ・ブロック別懇談会の開催  
 ・日本女医会吉岡弥生賞の募集

#### 学術部

- ・研究助成
- ・学術講演研修会を年数回開催

#### 事業部

- ・全国公募による公開講演会の援助
- ・荻野吟子賞、地域功労賞の決定と授与
- ・地域医療奉仕活動への助成
- ・社会保険新報社への原稿協力：月刊「いきいき」に健康記事掲載
- ・講習会等の事業実施
- ・災害、緊急時行動
- ・バザー、親睦活動による事業
- ・日本女医会活動に資する事業部アンケート調査に基づく事業の検討

#### 渉外部

- ・国連 NGO 国内婦人委員会および国際婦人年連絡会の加盟団体、市川房枝記念会維持団体として活動
- ・内閣府男女共同参画局に協力
- ・国内外医療関係団体との交流
- ・厚生労働省「健やか親子 21 推進協議会」の協力団体として活動

・国際機関との交流  
**広報部**  
 ・機関紙の発行  
 ・ホームページの更新と活用  
 ・年間業績集の作成と保存  
**子育て支援委員会**  
 ・助成金事業「十代の性の健康支援ネットワーク作り事業」を行う予定  
 ・「働く女性のための育児環境整備支援事業」を継続  
 ・「十代の性と健康 指導者養成講座」を年 1 回開催予定  
**長寿社会福祉委員会**  
 ・助成金事業「在宅高齢者(嚥下障害者、胃瘻造設者)の栄養管理事業」を行う予定  
**女性医師支援委員会**  
 ・医学を志す女性たちのキャリアデザインセミナー開催予定(7月)  
 ・女性医師に関するデータの収集  
 ・各地の女性医師の就業に関する動き等の情報提供  
 太田記代子会員(佐賀支部)より、日本女医会が地球環境問題に力を合わせることに、若い女性医師に日本女医会の存在をアピールできるのではないかと意見が出された。

以上原案どおり可決

#### 第 4 号議案

平成 20 年度一般会計収支予算案 濱田啓子  
 原案どおり可決

#### 第 5 号議案

各賞選考規程について 鹿田儀子  
 原案どおり可決

#### 第 6 号議案

次期および次々期総会開催地に関する件 小田泰子  
 ・次期開催地 大阪  
 ・次々期開催地 東京  
 原案どおり可決

表彰

- 1) 吉岡弥生賞受賞者  
医学に貢献した部門 伊藤千賀子  
社会に貢献した部門 今野信子、竹内静香
- 2) 荻野吟子賞  
緒方文江、吉本ミチ
- 3) 学術研究助成金授与者  
大久保由美子、藤巻わかえ

新役員の選出

15条の規定により現役員任期満了にともない役員改選のため選挙管理委員を選出。

石原幸子、緒方美佐子、後町暁子、齊藤文子、中原千恵子、平山玖美子・理事立候補者名(25名、五十音順)

秋葉則子、安部由美子、荒木葉子、内潟安子、小田泰子、川村富美子、古賀詔子、小関温子、澤口彰子、澁谷きよみ、高原清美、田中優子、塚田篤子、対馬ルリ子、津田喬子、濱田啓子、藤川真理子、松井比呂美、宮崎千恵、宮本治子、矢口有乃、山崎トヨ、山田邦子、山本蒔子、吉馴茂子・監事立候補者名(21名、五十音順)  
中井紀子、森川由紀子

理事定数 21～25名、監事定数 2名のため定款施行規則 23条により無投票当選となるとの報告。承認

会長、副会長互選の選挙結果発表  
定款施行規則第 15条にもとづき新役員による互選の結果、会長に小田泰

子、副会長に津田喬子、松井比呂美、山崎トヨが選任された。

会長 小田泰子  
副会長 津田喬子、松井比呂美、山崎トヨ

理事 秋葉則子、安部由美子、荒木葉子、内潟安子、川村富美子、古賀詔子、小関温子、澤口彰子、澁谷きよみ、高原清美、田中優子、塚田篤子、対馬ルリ子、濱田啓子、藤川真理子、宮崎千恵、宮本治子、矢口有乃、山田邦子、山本蒔子、吉馴茂子 以上承認

閉会の辞 角田 由美子  
後 1時 42分閉会

社団法人日本女医会 評議員会議事録

日時 平成 20年 5月 17日(土)  
場所 京王プラザホテル (東京都新宿区西新宿 2-2-1)  
午後 5時 00分開会  
司会 澁谷きよみ

社団法人日本女医会評議員会開催に際し

評議員数 95名  
出席数 48名  
記名委任数 22名  
白紙委任数 10名

以上のとおり日本女医会定款第 27条の定足数 19名に達し、評議員会が成立する旨の報告あり、開会を宣す。

会長挨拶 小田泰子  
報告

- 1. 会務報告(会員動静、会費納入状況) 澁谷きよみ
- 2. ナショナルコーディネーター報告 内潟安子
- 3. 会務報告(総会、理事会及び各委員会報告) 山崎トヨ

以上について配布済みの資料にもとづき報告

議長選出 深井登起子  
議事録署名人選出 中原千恵子、大竹輝子

議事

第 1号議案

平成 19年度事業報告の承認の件 山崎トヨ  
配布済みの資料にもとづき報告、承認される

第 2号議案

- 1. 平成 19年度一般会計収支計算承認の件 高原照美
- 2. 剰余金処分案 高原照美
- 3. 平成 19年度特別会計計算の承認の

件 森川由紀子

- ・吉岡弥生賞基金
- ・国際女医会議記念事業基金
- ・独立行政法人福祉機構助成金
- 以上について配布済みの資料にもとづき報告

会計監査報告 松井ひろみ  
監査の結果適法かつ正確であることを認める旨の報告

よって 2号議案は原案通りに可決  
第 3号議案

平成 20年度事業計画案 角田由美子

庶務部

- ・諸会議(理事会、総会、評議員会)の開催
- ・会員増加推進
- ・ブロック別懇談会の開催
- ・日本女医会吉岡弥生賞の募集

学術部

- ・研究助成
- ・学術講演研修会を年数回開催

事業部

- ・全国公募による公開講演会の援助
- ・荻野吟子賞、地域功労賞の決定と授与
- ・地域医療奉仕活動への助成
- ・社会保険新報社への原稿協力：月刊「いきいき」に健康記事掲載
- ・講習会等の事業実施
- ・災害、緊急時行動
- ・バザー、親睦活動による事業
- ・日本女医会活動に資する事業部アンケート調査に基づく事業の検討

渉外部

- ・国連 NGO 国内婦人委員会および国際婦人年連絡会の加盟団体、市川房枝記念会維持団体として活動
- ・内閣府男女共同参画局に協力
- ・国内外医療関係団体との交流

- ・厚生労働省「健やか親子 21 推進協議会」の協力団体として活動
- ・国際機関との交流

広報部

- ・機関紙の発行
- ・ホームページの更新と活用
- ・年間業績集の作成と保存

子育て支援委員会

- ・助成金事業「十代の性の健康支援ネットワーク作り事業」を行う予定
- ・「働く女性のための育児環境整備支援事業」を継続
- ・「十代の性と健康 指導者養成講座」を年 1回開催予定

長寿社会福祉委員会

- ・助成金事業「在宅高齢者(嚥下障害者、胃瘻造設者)の栄養管理事業」を行う予定

女性医師支援委員会

- ・医学を志す女性たちのキャリアデザインセミナー開催予定(7月)
- ・女性医師に関するデータの収集
- ・各地の女性医師の就業に関する動き等の情報提供 原案どおり可決

第 4号議案

平成 20年度一般会計収支予算案 濱田啓子  
原案どおり可決

第 5号議案

各賞選考規定の件 鹿田儀子  
原案どおり可決

第 6号議案

次期および次々期総会開催地に関する件 小田泰子

次期開催地 大阪  
次々期開催地 東京

閉会の辞 鹿田儀子  
午後 6時 18分閉会

# 追悼

長年、日本女医会の役員としてご活躍されたお二人の先生が亡くられました。謹んでご冥福をお祈りします。

野澤良美先生（都下東支部）

昭和52～平成3年 常任理事4期、平成3～6年 理事1期、平成6～9年 副会長1期、平成9～15年 監事1期

関口喜久先生（練馬支部）

昭和57～平成6年 理事4期



## 野澤良美先生を 偲ぶ

神奈川支部 中濱昌子



野澤先生が日本で初めて病児保育を始められたのは皆様ご存じの通りです。何でも最初に計画実行するには想像以上の努力実行力が必要です。その為に何回も厚生省に足を運ばれたとご苦労について話されたことがございました。何年も前に私の患者さんですが園児のお子さんが水痘になり神奈川から栃木の実家に預けに行ったという例もあり、若いお母様方からどんなに喜ばれたことかと存じます。

1984年カナダでの国際女医会議で学術発表をなさいました。戦時中英語廃止の時代に育った私はヒアリングが苦手でしたが、やはり日本人同志、この時は野澤先生のご講演が一番分り易かったと記憶しております。

医学的なご活躍は皆様ご承知のことと存じますので省略いたします。

野澤先生と親しくなったのは平成6年に共に副会長になってからでした。私は1歳下ですが早生まれなので学年は同じで比較のお話は合いました。

野澤先生は又用心深い方で、国際女医会でのツアーで有名な洞窟見学の時、「洞窟には入らない」と言ってお一人外の売店で待っていらっしゃいました。又、青森での総会の時は「飛行機は嫌」と、新幹線と一緒にいたしました。総会の時は東京の京王プラザをはじめ地方のホテルでも度々同室でした。青森の時は「お話をしたいの」と仰言ってお話にのめりこんでいまして、気がつきましたら午前1時半を過ぎていました。青森へ行くので朝は早く起きまし、又翌日のスケジュールがございますので「もう寝<sup>やす</sup>みましょうよ」と言って急いでお床に就いたこととございました。

今年年賀状を出しましたら妹様の小川昭子先生か

ら「現在入院中（膝で）ですが快気祝のできるのを楽しみにしている」とおしらせを頂き驚きました。私も今年の寒さがこたえて体調をくずしていましたのでお見舞に行けませんでした。とりあえずお便りですませました。5月18日の日本女医会総会の折「長くなりますので……」とお内祝のお品を頂きご家族の方も快気祝のできるのを心待ちにしていच्छるご様子なのでひとまず安心いたしました。

5月26日午前の診療が終った時、妹様からのお葉書が着いておりましたが、これは別の文面でした。そのあとファックスで日本女医会から野澤先生の訃報が着いているのを見て本当にびっくりいたしました。何度も見直しましたが間違いありません。驚きと共に暫く動けませんでした。

野澤先生、長らくのご活躍、沢山の人の助けをなさいました。後はご立派な妹様の小川先生にお任せして、天国でごゆっくりお休みください。長い間、ご苦労様でございました。

合 掌



## 関口喜久先生を お送りして

練馬支部 神山シヅ



昨年10月、クモ膜下出血で倒れて、順天堂病院本院に入院されて以来ずっと意識を回復されず、その後転院されましたが、入院のまま89歳の長寿を全うされお亡くなりました。

日本女医会から練馬支部長にと指名された時、神山と一緒にならということで、長い間おつきあいました。

各地で開かれる総会によく出席しましたが、一番の思い出は大阪万博の時マンションに泊まり、一週間無事に働いたことです。閉門に近づくと、各パピリオンを悠々見学出来、楽しんだ事です。

先生は多趣味で、観劇、日本舞踊、油絵、ソーシャルダンス等、楽しまれ、お好きな人生をお送られました。

亡くられたのが3月末で、今年は丁度、桜が満開の頃でした。御葬式場の周囲には沢山の桜の木があり、それらの花にも見送られ、高遠を思い浮かべながら満足して旅立たれた事と存じます。

ご冥福をお祈り致します。



## 国際女医会 西太平洋地域会議のおしらせ

オーストラリア・メルボルン市で開催される国際女医会—西太平洋地域会議に、ご一緒に出かけませんか。

日時：2008年10月17～19日 場所：オーストラリア メルボルン市 ソフィテルホテル

テーマ

- |                           |                  |
|---------------------------|------------------|
| 1. 環境と健康                  | 4. 健康増進へ向けての改革   |
| 2. 女性と子どもにおよぼす暴力・戦争・テロの影響 | 5. 感染とワクチン       |
| 3. 医学における女性のプロフェッショナル性    | 6. advocacyと健康政策 |

学会登録：オンラインで。初期登録は8月28日まで。詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.tourhosts.com.au/afmw2008>

旅行手配：中西興産株式会社 トラベル事業部 〒104-0031 東京都中央区京橋1-1-1 中西金属工業（株）東京支店内  
 （電話）03-3278-0305 （FAX）03-3278-0395 e-mail: tokuya-k@nkc-j.co.jp  
 担当：徳矢 貢一 学会登録のみでもお引き受けします（代行手数料：3000円）。

### 日本外科学会でのシンポジウムと 女性外科医懇親のための朝食会

東女医内支部 富沢康子

日本外科学会では女性会員が4.5%（1684名）となり、平成19年女性外科医支援委員会ができました。12人のうち女性委員が半数をしめ、第1回目の委員会は同年6月に開かれました。たいへん活発な委員会で、12月には代議員、一般会員を対象にアンケート調査を行うことができました。

第108回日本外科学会定期学術集会（平成20年5月15～17日、長崎）は兼松隆之先生が会長で開催されました。シンポジウム「女性外科医にとって働きやすい環境づくりのために」は、川瀬和美先生と永田康浩先生の司会でした。赤津晴子先生の基調講演「アメリカ女性医師の素顔」に続き、川瀬和美先生のアンケート報告、そして一般演題として「きらめきプロジェクト」に参加している徳永えり子先生、学童期の子供をもつ女性医師の問題を提起した児玉ひとみ先生、女性研修医が外科を選ぶために女性外科医の存在が必要と永田康浩先生、外科勤務を続けるためのコツを田中真紀先生、夫婦が医師として勤務するために「できる方がやる」ことが大切と藤巻高光先生、問題提起は組織からと、厚生労働省医政局医事課の石川典子先生からの発表がありました。水田祥代先生の特別発言には女性医師の歴史の重みがあり女性医局

員の活躍を応援して下さってきた大変すばらしい先輩がおられたことを心強く思いました。

学術集会において第1回目の「女性外科医懇親のための」朝食会をさせて頂きました。開催が決まったのが直前であり、掲示、委員会のメーリングリストでのお誘いで、出席者が少ないことを心配しました。女性外科医だけでなくその小学生の娘、夫も参加し、早朝にもかかわらず出席者が19名となり、第1回目としては上出来でした。

日本外科学会には約300人の代議員がいますが、水田先生が唯一の女性代議員でいらっしゃいました。先生の退官により女性代議員がいなくなってしまったことを大変残念に思いました。

女性外科医師の働く環境を改善するにはまず、医師全体の働く環境を改善することが重要です。女性医師が甘えることなく公平に評価され、ますます活発に楽しく活動できる環境を得られることを希望します。



## ■支■部■だ■よ■り■

# 20年ぶりに、 大阪で総会を開催します!

大阪支部連合会会長 野崎京子

猛暑の毎日ですが、みなさまお元気にご活躍のことと存じます。また日本女医会新執行部の先生方も何かとご苦労の多いことと存じます。

今回大阪十支部の代表として第9支部の吉馴茂子先生（再選）、第8支部の宮本治子先生（新規）が新執行部に参加させて頂いております。宜しくお願い致します。

さて、大阪支部連合会の活動としては、10の支部の会員が集まって定期的に年1回の総会・学術講演会・懇親会を行ってきました。その他として、日本女医会の行事が大阪で行われる時は、支部としてお手伝いしてきました。最近では、「ワークショップ：病

児保育を考える」（平成17年11月13日）、「たんの安全な吸引法、教育講習会」（平成19年9月30日）などがあげられます。その他の女性医師としての活動は地区医師会組織や大阪府女医会（日本女医会とは別組織）の中で行っている現状です。

ところで平成21年度日本女医会総会を大阪で開催することになりました。大阪支部連合会が開催のお手伝いをするようになっております。大阪で開催するのは20年ぶりとのことです。時節柄、日程的にも経費的にもコンパクトにして、若い先生方にも参加して頂きやすいようにと考えております。宜しくお願い申し上げます。

## 平成21年度日本女医会総会予定（案）

日 時	平成 21 年 5 月 16 日（土）、17 日（日）
場 所	ホテルグランヴィア大阪（JR 大阪駅中央口より直結）
プログラム （予定）	<b>16 日（土）</b> 午前～午後：オプション（ゴルフ、宝塚観劇） 17 時～19 時：評議委員会 19 時 30 分～：懇親会  <b>17 日（日）</b> 10 時～12 時：総会 12 時～13 時：昼食 13 時～15 時：講演二題 国際女医会議会長 平敷淳子先生 前九州大学病院長 水田祥代先生

### ※オプション予告

- 1) 宝塚大劇場の観劇 日時 2009. 5/16(土) AM11:00 開演 現地集合 AM 10:00  
 アクセス\*大阪空港（伊丹）からタクシーで30分 \*新幹線 新大阪から1時間以内  
 前日から御宿泊される方は大阪支部でホテル確保、バスにて現地までお送りいたします。  
 観劇後 PM3:30、チャーターバスにて総会会場のホテルグランヴィアまでお送りいたします。  
 S席 50席確保 1枚¥8,000
- 2) ゴルフ 関西きっての名門「西宮カントリークラブ」  
 早朝スタートです。ご宿泊の方は大阪支部でホテルを確保し、ご案内もさせて戴きます。  
 終了後は総会会場までお送りいたします。



## 私の大学

北海道公立大学法人  
札幌医科大学

北海道支部 堀本江美

洞爺湖サミット2008が無事に終わり、G8の要人らはあっという間に自国へ戻っていきました。期間中は多くの交通規制がかかり、日本中から集まった警察官、サミットに関連した多数のイベントの参加者など、札幌は人でごった返していましたが、ほっとしているところです。

札幌の街中に程近い場所に、父と私の母校である、札幌医科大学があります。開学して60年あまり、医学部の卒業生は6,500名を超えています。保健医療学部もあり、北海道で唯一の公立医系総合大学として発展してきました。卒業生の8割以上が北海道で道民のために日々診療を行っています。みなさんがご存知なのは、1968年日本初の和田心臓移植でしょうか。また直木賞作家の渡辺淳一の出身校で、文学のレポートでは、多数の学生が渡辺氏の著書を引用します。札幌で開催された冬季オリンピックの歌「虹と雪のバラード」の作詞は整形外科の元教授である河邨文一郎氏のものでした。

学内の気風は自由で、飾らない、そして何より心の優しい人が多いように思います。先週、卒後20周年の同窓会がありました。皆さん油の乗り切った時期を迎え、心身ともに充実されている様子が伺えました。講演は、泌尿器科准教授の舩森直哉先生のGID性同一性障害についてでした。彼はFtM (Female to Male)、MtFの両方の手術を行っています。症例は多いですから、この分野の専門家は貴重です。また、低体温症で有名な麻酔科医、山蔭道明先生も同級生です。

私の在学中は、女性は1学年の定員100名中5～10人くらいでしたが、今は30名前後になっています。年1回ですが授業に行くと、男子校のようだった学内がすっかり華やかになっています。最近ではIFMSA-Japan (国際医学生連盟日本)に参加する学生が増え、健康に関する世界の諸問題への意識が高い学生が様々なイベントに協力しています。先日、学生の「どうやったら人の役にたてるか」という純粋な志に触れる機会があり、とても嬉しく思いました。女性が結婚も子育ても、そして医師として24時間働くには、回りのサポートなしでは実現できません。自分が多くの方に助けられてきましたから、これからは、少しでも後輩の力になりたいと思っています。本校がステキな学校であることが伝わると嬉しいです。

過活動膀胱治療剤

指定医薬品、処方せん医薬品<sup>注)</sup>

# ステーブラ<sup>®</sup>錠 0.1mg

イミダフェナシン錠

STAYBLA<sup>®</sup>

注) 注意-医師等の処方せんにより使用すること。

薬価基準収載



●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等、詳細は製品添付文書をご参照ください。

資料請求先



小野薬品工業株式会社

〒541-8564 大阪市中央区久太郎町1丁目8番2号

080401

社団法人日本女医会  
**((理事会議事録))**

**日時**：平成20年3月23日（土）  
 午前10時30分

**場所**：ルークホール

**出席者**：小田、鹿田、角田、山崎（卜）、内潟、大坪、大塚、澁谷、高原、田中、対馬、塚田、津田、濱田、藤川、村田、森川、山崎（康）、山本（續）、山本（蒔）、吉馴、中井、松井（以上23名）

**欠席者**：荒木、古賀、坂本、西嶋、（以上4名）

**審議事項**

1. 定時評議員会、定時総会の件（選挙も含む）
2. 平成19年度事業計画案および予算案の件
3. 予算を組むための会計からの提案
4. 事業部からの提案
5. その他
  - ・定期昇給について

2月理事会の議事録を承認

**会長挨拶**

1. 3月8日は「国際女性デー」、3月10日に在日国連機関では公開フォーラムを開催した。
2. 山形で「第4回山形女性医師ネットワーク」が開催された。各地で同様の活動が企画されている。日本女医会が支援・共催できたらと希望している。
3. 日本医師会へ日本女医会の全国ネットワーク活用の打診をしている。
4. 香川県女医会橋本会長より「ブロック別懇談会開催を検討している」とのお返事を頂いた。
5. 本日講演会の終了後、日本医師会唐澤先生の選挙事務所に表敬訪問の予定。都合のつく方は是非同行してほしい。

**報告事項**

1. 庶務報告（大塚理事）
  - ・2月27日、「地婦連主催、全地婦連幹部研修会2007」で講演（山本（續）理事）

- ・3月1日、全国在宅医療主催「介護をささえる、家族をささえる」で講演（大坪理事）
- ・3月2日、名古屋で開催された「平成19年度学術講演会」に出席（鹿田副会長）
- ・3月2日、京都支部総会に出席（小田会長／角田副会長）
- ・3月9日、女性医療ネットワーク主催「女性医療のネットワークづくり」で講演（小田会長）
- ・3月17日、内閣府男女共同参画局主催「上川内閣府特命担当大臣と産科医療関係者との懇談」に出席（対馬理事）

2. 2月会計報告（高原理事） 承認
3. 各部報告
  - <学術報告>

3月2日愛知医師会館で開催の学術講演会「認知症を考える」の報告。83名の申し込みがあったが、予算よりかなり安価に終了。今後も地方での開催を考えて行く。（山本（續）理事）

<広報報告>  
 日本女医会誌第194号の原稿を依頼中（山崎（康）理事）

<渉外報告>  
 平日日中に開催されて渉外部が出られない会議に中井監事が出席することを再確認

4. 委員会報告
  - ・子育て委員会（鹿田副会長）「救急のかかり方」に関する印刷物と最終報告書を作成中。今までの協力に対し謝辞。
  - ・長寿社会福祉委員会（松井監事、大坪理事）講習会開催の協力に対する謝辞。最終報告書を作成中。

**審議事項**

1. 定時評議員会、定時総会の件（澁谷理事）
  - ・予算について  
 提出された資料1に基づき説明があり、庶務一任で簡素に行うことに決定。
  - ・資料2の進行表に基づき、議題、所要時間、発表者を決定する。
  - ・議題「19年度一般会計収支計算（案）」の案をとるか否か、専門家に意見を伺う。
  - ・会計収支予算案はお金の流れが会員に分かるように簡素に読み上げ

- る。
- ・次々期総会開催地である東京都支部連合会会長中山先生へ、小田会長より正式な協力依頼を差し上げる。
- ・理事数が一定の幅で決められているので、会員数の減少にも拘わらず理事数が変わらないことについて考慮すべきではないか、との意見が出された。選挙方法を含め今後審議することに決定。
- ・議長との事前打ち合わせを徹底して、会の進行をスムーズに行う。
- ・選挙について  
 選挙管理委員会委員長には石原幸子前副会長に依頼。他に5名の委員が任命された。理事は3名、監事は1名定数より多い立候補があったため、立候補者に「日本女医会のために何をしたいか」との考えを、100字以内にまとめて4月10日必着で提出して頂き、立候補者略歴と一緒に会員に通知する。
- ・進行の簡素化を図るため、澁谷理事の作成したパワーポイントを試写した。全員賛成で、5月の評議員会、総会でパワーポイントを使用して会を進行することに決定。  
 また、日本女医会のノートパソコン、プロジェクター、スクリーンの購入を検討する。
- 2. 平成20年度事業計画案および予算案について  
 各部で資料3の内容を検討し、変更があったら事務局へ4月10日まで連絡する。この資料をもとにパワーポイントを作成する。
- 3. 予算を組むための会計からの提案（森川理事）
  - ・年金からの繰入金、百周年での寄付金等、残額が少なくなって来ている。
  - ・何らかの方法で収入を増やし、支出を減らす方法を考えて頂きたい。
  - ・ネットを利用し、日本女医会を表に出して積極的に売り出しアピールすることにより、会員の増強にも繋がるのではないかと意見も出された。
  - ・寄付を募るため総会会場に募金箱をおき、会誌には「募金のお願い」を載せる。
- 4. 事業部からの提案（津田理事）

資料に基づき説明があった。

#### 5. その他

- ・資料作成の場合は抜きの無い様、役員は必ず目を通す。
- ・昨年、評議員会、総会で質問のあった「支部助成金」の名称については総会で回答する。
- ・職員の定期昇給については例年通り、承認された。

以上

**日時**：平成 20年4月26日(土)  
午後3時

**場所**：日本女医会会議室

**出席者**：小田、鹿田、角田、山崎(ト)、内潟、大坪、大塚、古賀、坂本澁谷、高原、田中、塚田、濱田、藤川、村田、森川、山崎(康)、山本(續)、山本(蒔)、吉馴、中井、松井 (以上 23名)

**欠席者**：荒木、対馬、津田、西嶋 (以上 4名)

#### 審議事項

1. 定時評議員会、定時総会最終打ち合わせ
  2. 本部の決算・予算と特別会計について
  3. 役員改選について
  4. その他
    - ・PCとプロジェクターの購入について
    - ・懸案事項の取り扱いについて
    - ・後援依頼
- 3月理事会の議事録を承認

#### 会長挨拶

1. 3月23日理事会、講習会後に日本医師会「唐澤選挙事務所」を訪問し、日本女医会の持つネットワークを利用して、女性医師のキャリアアップ支援を行ってほしいと要望してきた。
2. 日本医師会の選挙では保坂先生が健闘して145票を獲得された。
3. 上川男女共同参画特命大臣、池坊文科副大臣と面談
4. 役員立候補が定数より多く選挙に

なる。

5. 今年度の事業計画が出されて、具体的に動き始めることを期待している。

#### 報告事項

1. 庶務報告(澁谷理事)
  - ・4月14日「男女共同参画推進連携会議全体会議」に、4月17日内閣府男女共同参画局主催「第52回国連婦人の地位委員会等について聞く会」に出席 (松井監事)
  - ・4月14日、池坊文科副大臣、上川内閣府特命担当大臣と面談 (小田会長、松井監事)
  - ・4月23日、国際婦人年連絡会・環境委員会に出席 (中井監事)
2. 3月会計報告 (森川理事) 承認

#### 3. 各部報告

##### <渉外報告>

国際婦人年連絡会に中井監事が出席 (山本(蒔)理事)

##### <広報報告>

日本女医会誌第194号を昨日25日全会員に発送。次号は8月末発行予定。今後の会誌広告の協力を全員に要請 (山崎(康)理事)

また、エッセイ「北から南から」は坂本理事より藤川理事へ、角田副会長より大坪理事へ原稿が依頼された。

#### 4. 委員会報告

- ・子育て委員会(鹿田副会長)  
小冊子「どうしよう…小児救急」購買の希望が多く一万部を増刷。今後販売の協力を要請。特に行政に宣伝してほしい。
- ・長寿社会福祉委員会(大坪理事)  
最終報告書を全会員に送付。2年間の活動に対しての協力に対して謝辞があった。

#### 審議事項

1. 定時評議員会、定時総会最終打ち合わせ(澁谷理事)
  - ・総会の進行について  
京王プラザホテルの遠藤氏から総会会場、昼食、昼食会場の説明があった。
  - 講演会の時間は動かせないので、選挙は総会、黙祷の後で投票を行い、投票は早く終了するように行い、総会議事進行中に開票をする。
  - ・総会参加者には総会開始時間が11時であり、閉門して行くことを明記

して連絡する。

- ・議事の進行は松井監事と庶務部で検討して決定する。
  - ・寄付をして頂くために奉加帳を用意する。
  - ・懇親会の余興については庶務部に一任をする。
  - ・澁谷理事が作成したパワーポイントの資料を映写し、最終確認する。
2. 本部口の決算・予算と特別会計について (森川理事)  
決算と予算について説明があり承認される。
  3. 役員改選について  
選挙方法を検討する。今後理事会で検討し、来年の総会で諮る。
  4. その他
    - ・PCとプロジェクターの購入について (澁谷理事)  
今回の購入は見送ることにする。
    - ・懸案事項の取り扱いについて (澁谷理事)  
今後、懸案事項は審議事項の後に提出し、必ず結論を出すようにする。
    - ・後援依頼  
「タバコ問題首都圏協議会」および「性と健康を考える女性専門家の会」より後援依頼があり、承認。
    - ・角田副会長より寄付金10万円の説明があり、他の理事へも協力を要請。
    - ・事務員の増員について  
以前日本女医会に勤務した事のある関美恵子さんに5月の総会前からパートでの勤務を決定。又コンピューターを1台購入する。
    - ・国際女医会会費(内潟理事)  
国際女医会本部より年会費の請求があり(1人につき8米ドル)、1010人分を支払うことに決定する。会誌にも掲載したがMWIA報告があった。
- 次の国際女医会議はドイツで2010年6月27日～31日までドイツで開催。
- ・藤川理事の提案により今後入会申込書に理事推薦者の欄を設けることに決定。
  - ・今期で辞任する役員から挨拶があった。

以上

## 寄付者一覧

以下のとおりお知らせいたします。ご協力誠にありがとうございました。

氏名	支部名	氏名	支部名	氏名	支部名	氏名	支部名
赤塚 智香	江東	加藤 竺子	福岡	高原 照美	富山	平山玖美子	練馬
秋葉 則子	千葉	金子ミサヲ	秋田	高松 むつ	青森	柊山 緑	宮崎
浅見 豊子	佐賀	川越 理香	神奈川	田中 優子	三重	藤盛 尚子	青森
安部由美子	群馬	川田喜代子	大阪2	津島 敦子	青森	前田慶子記念	青森
荒木 葉子	都下東	川田 仁子	港	津田 喬子	愛知	町田 祐子	青森
伊藤千賀子	広島	川村富美子	足立	角田由美子	練馬	松井ひろみ	目黒
稲生 襄	神奈川	岸 澄子	愛媛	豊岡 志保	山形	宮本 治子	大阪8
内潟 安子	学内	木下 晴美	佐賀	中野 慧子	愛知	村上 信子	青森
大竹 輝子	神奈川	木村あさの	青森	中濱 昌子	神奈川	森川由紀子	足立
大津 幸世	青森	窪 斐子	高知	永山 浩子	青森	諸井ミサヲ	佐賀
大塚 貞子	都下西	熊谷 貴代	千葉	新美 素子	愛知	山崎 修子	新宿
大坪 公子	世田谷	古賀 詔子	宮城	西嶋 攝子	大阪7	山崎 トヨ	栃木
大西 洋子	大阪1	子安 佳子	大阪10	野崎 京子	大阪10	山崎 康子	神奈川
大橋 照美	愛知	斉藤 文子	世田谷	野々田宣子	都下東	山田 邦子	群馬
大森 安恵	学内	鹿田 儀子	北	野村 和子	板橋	山本 紘子	愛知
緒方 文江	佐賀	澁谷きよみ	愛知	橋川ふさ子	愛知	山本 蒔子	宮城
小栗貴美子	愛知	関根 みよ	埼玉	八戸女医会	青森	横内 戴子	青森
小関 温子	神奈川	高橋 英子	青森	羽田 知子	青森	横須賀麗子	佐賀
小田 泰子	宮城	高橋 和子	秋田	濱田 啓子	北海道	吉馴 茂子	大阪9

## 会員動静 (2008年7月26日現在)

新卒入会	入会	退物	会故
村岡 東子	荒 川	村上 真美 (昭56年卒)	岐 阜
長坂美沙子	新 宿	渡辺 久代 (昭52年卒)	岐 阜
堀本 江美 (昭63年卒)	北 海	畑中貴久子 (昭56年卒)	大 阪 第1
神村 裕子 (昭54年卒)	道 形	狭間 礼子 (平7年卒)	大 阪 第10
佐藤公光子 (昭55年卒)	山 城	原 葉子 (昭32年卒)	大 阪 第10
佐藤 浩子 (平8年卒)	宮 馬	18名	
大塚 明子 (昭63年卒)	群 玉	水島 淑子 (昭16年卒)	北 海 道
柴崎 智美 (昭63年卒)	埼 玉	阿部 信乃 (昭11年卒)	山 形
鈴木 薫 (昭57年卒)	千 葉	中西 幸子 (昭26年卒)	杉 並
新美 素子 (昭44年卒)	愛 知	関口 喜久 (昭15年卒)	練 馬
高須 宏江 (昭56年卒)	知 知	斎藤三津子 (昭16年卒)	文 京
江島 経子 (昭61年卒)	岐 阜	野澤 良美 (昭20年卒)	都 下 東
近藤 由香 (昭60年卒)	岐 阜	古川恵美子 (昭23年卒)	愛 知
新美佐知子 (昭47年卒)	岐 阜	山田 貞子 (昭22年卒)	愛 知
初音三重子 (昭43年卒)	岐 阜	相原 村子 (昭24年卒)	鳥 取

### 編集後記

この度広報を担当することになり、最初の校正の段階で、女医と女性医師の使い方をどうするかといったことが議論になりました。先日、日本女医会の理事になったことをある男性医師に告げた時、「[女医]と呼ばれることに抵抗はないの?」と言われました。私が医師になった昭和50年頃は、女性医師は10%にも満たなかった頃で、女医という呼び名をジェンダーだとも感じませんでしたし、「女医さん」と親しみをこめて呼ばれることに誇りさえ感じました。看護婦さんが看護師、保母さんが保育士となじみやすい呼び名が変えられ、どんどんギクシャクした世の中になっていくような気がします。100年前に、吉岡彌生先生達が苦勞して築き上げた「女医」の地位とその役割を、呼び名にこだわらず確実に継承して、日本女医会の会員「女医」として胸を張って社会に貢献し続けたいと思います。

広報部 宮崎千恵

## 日本女医会誌

復刊第195号 2008年8月25日発行  
 編集人 対馬ルリ子  
 発行人 小田泰子  
 制作 あづま堂印刷製

発行所 社団法人 日本女医会  
 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-8-7青山宮野ビル  
 TEL 03-3498-0571 FAX 03-3498-8769

http://www.jmwa.or.jp  
 e-mail : office@jmwa.or.jp